

PET LIFT

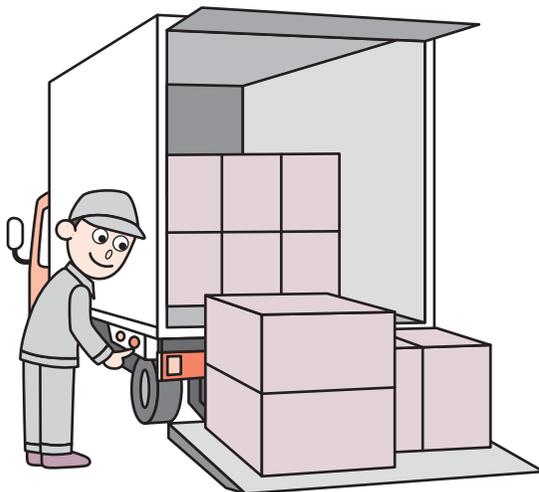


ペットリフト

- SL-60P (リフト能力:600kg)
標準タイプ
- SL-60PH (リフト能力:600kg)
背のびタイプ

取扱説明書

ご使用前に本書を必ずお読み下さい
取扱説明書は車の中に保管しましょう



株式
会社

北村製作所

まえがき

このたびはペットリフトをお買い上げ頂きありがとうございます。
本書はペットリフトの操作、点検、および整備の方法について説明しています。
ペットリフトを操作する前に本書をよく読んで、十分に理解してからご使用下さい。

- **必読! 厳守事項** ▲ **危険** ▲ **警告** ▲ **注意** は特に重要な事項ですので必ず読んで守って下さい。これらを守らないと事故につながったり、けがをしたり、車が損傷する等の恐れがあります。
- 本書および製品に貼り付けたコーションプレートは次の3段階で区分し表示してあります。

 危険	取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合
 警告	取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合
 注意	取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害の発生が想定される場合

- 守って頂きたいことや、知っておくと便利な内容を記載しています。

	取り扱い、操作方法、点検整備などに関して、参考となる事項について記載してあります。
---	---

- 使用者が変更になる場合は、次の使用者のために本書を車両につけておいて下さい。
- ご不明な点がありましたら巻末に記載の支店・営業所までお問い合わせ下さい。
- 仕様などの変更により、本書の内容と車両が一致しない場合があります。あらかじめご了承下さい。
- ペットリフトを改造したり本書に記載のない修理を行うことは安全に関して重大な影響を及ぼすおそれがあります。決して勝手な改造や修理を行わないで下さい。
- リフトの取り扱いに関する法令は、道路交通法、道路交通法施行令、労働安全衛生規則で記載されています。

— 目次 CONTENTS —

1. 必読! 厳守事項	1
● コーションプレートの貼付け位置と内容	
● 作業時の注意事項	3
● 走行時の注意事項	9
● 点検整備時の注意事項	10
2. 各部の名称	11
● 扉兼用式	11
● 観音扉後立掛式	12
3. 操作説明	13
● 作業準備	13
● リフトテーブルを開く	14
● リフトテーブルを下降させる	16
● リフトテーブルを上昇させる	17
● キャスターストップパ(オプション)の使用方法について	18
● リフトテーブルを閉じる	22
● 車両の走行について	25
● 室内リモコンスイッチについて	27
● 自動起立装置付きテーブル(オプション)の操作方法	28
4. 点検・整備	30
● 日常(運行前)点検	30
● 定期点検	30
● 日常(運行前)及び定期点検表	31
● ワイヤの点検と交換	33
● 給油・給脂	37
● 洗車	41
● ヒューズ	42
● 配線図・配管図	43
● 配線図	44
● トラブルチェック	45
● よくあるトラブル事例	49
5. アフターサービス	50
● 補修用部品	50
● 点検・修理・保証	51

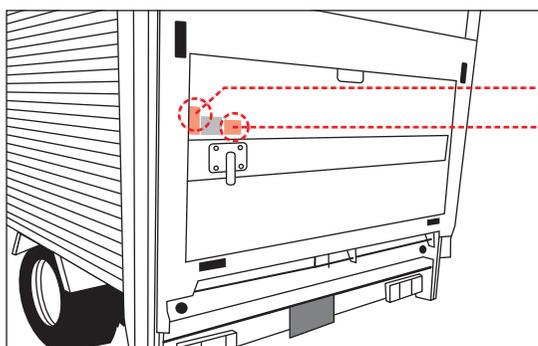
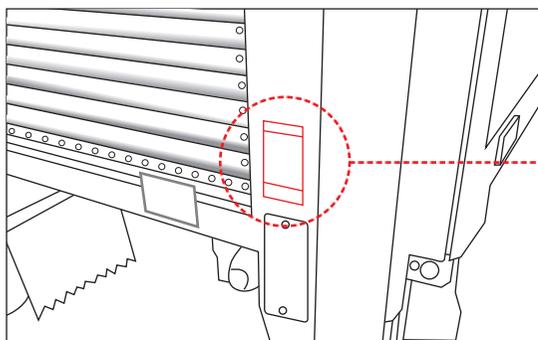
1. 必読! 厳守事項

●コーションプレートの貼付位置と内容

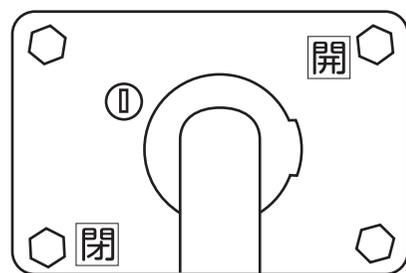
ペットリフトには、コーションプレートが貼付けられています。

コーションプレートには、ペットリフトを安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。

ペットリフトをご使用になる前に内容を十分理解していただき、安全な作業を心がけて下さい。また、記載事項がみにくくなった際は新しいものと交換して下さい。

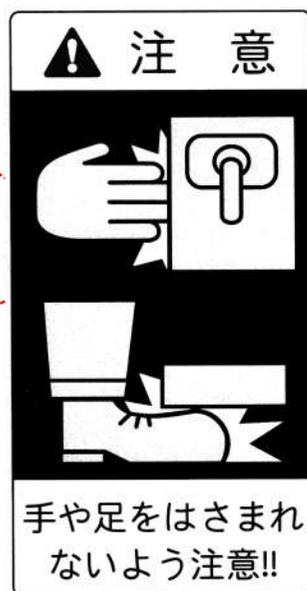


「リフトテーブル」

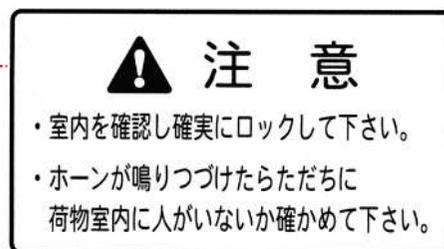


「ハンドル開閉表示」

「はさまれ注意」



「荷室内閉じこまれ注意」



1. 必読! 厳守事項

「能力表示」

PET LIFT

型式 SL60P
能力 600kg

積載能力表

600	475	350
475	600	750
mm		

取扱説明書をよく読んで正しく理解して操作して下さい。

「一般注意事項」

1. 御使用前に

- ・回転部の給油、給脂は毎週1回行って下さい。
- ・損傷などがないか点検して下さい。
- ・周囲や御自身の安全に充分注意して下さい。
- ・空操作を行い、正常に機能するかをお確かめ下さい。
- ・車輪止め（オプション）が確実に起き上がっていることをお確かめ下さい。

2. 注意

- ・積載能力を超えて積まないで下さい。
- ・荷物は必ず黄線内に積載して下さい。
- ・荷物は偏心させて積まないで下さい。
- ・床面を昇した後も操作ボタンを押し続けるとモーター焼損の原因となります。
- ・荷役作業は30秒以上の連続運転を行わないで下さい。

「作動油」

作動油について

油量の不足・油の汚れは故障の原因となりますので下記事項に御注意下さい。

- ◎日常点検
 - ・レベルゲージにより油量を点検して不足の場合は補充して下さい。
- ◎定期点検
 - ・購入後3ヶ月、それ以降は6ヶ月に1回油を交換して下さい。
 - ・使用頻度が多く汚れが著しかったり、粘度が異常に変化したときは随時交換して下さい。
- ◎作動油の種類
 - ・指定された作動油（取扱説明書参照）を御使用下さい。

「ワイヤーの点検・交換」

ワイヤーの点検・交換について

リフトテーブルはワイヤーで支えられています。ワイヤーが切断すると重大事故につながります。

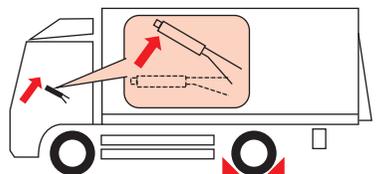
- ◎定期点検・交換
 - ・1週間に1度ワイヤーに給脂して下さい。
 - ・3ヶ月毎にワイヤーの摩耗や損傷の有無を確認し異常がある時は使用を中止し、交換して下さい。
 - ・ワイヤーに損傷が無い場合でも必ず2年毎に交換して下さい。
- ◎ワイヤーは北村純正品を御使用下さい。
 - ・ワイヤーの御注文はボデー右側のプレート番号を連絡して下さい。

1.必読! 厳守事項

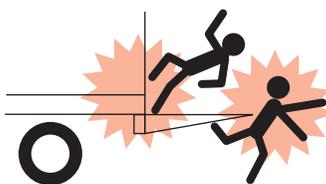
●作業時の注意事項



●リフトの操作を行う前に、車両の駐車ブレーキが確実に効いていることを確認して下さい。また、車輪には輪止めをしてから作業を開始して下さい。車両が前後に移動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



●リフトを操作するときは、車両の周辺に人がいないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。



●リフトの操作は、不整地や傾斜地では行わないで下さい。積荷の転倒・落下によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

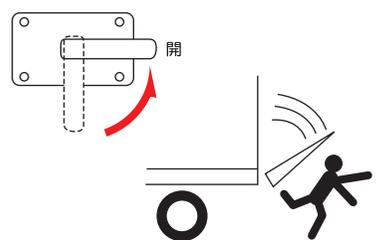


●リフトの操作は、リフトの作動が目視できる位置で行って下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

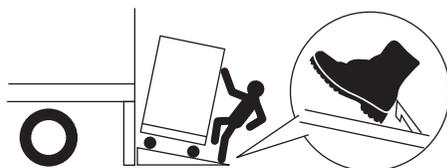


●リフトを操作するときは、リフトの作動部に手や足を近づけないで下さい。作動部に手や足をはさまれ、人が重大な障害を受ける恐れがあります。

●ロックハンドルを「開」にする時に操作力が重い場合は、操作を一旦中断し、リフトの「リフトテーブルを上昇させる」操作を行った後、ロックハンドルを「開」にして下さい。ロックハンドルの操作力が重いままロック解除するとリフトテーブルが急降下する恐れがあります。



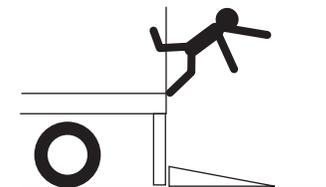
●リフトテーブルに積荷を載せるときは、キャストストップの突起部分に注意して下さい。転倒などによって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



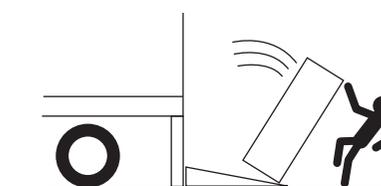
1.必読! 厳守事項



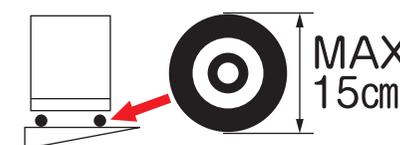
●リフトテーブルを車両床面より下げているときは、荷台とリフトテーブルの段差に注意して下さい。人が車両床面から落下し、重大な傷害を受ける恐れがあります。



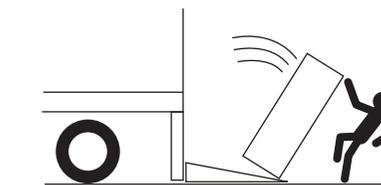
●積荷は転倒、落下しないようにバランスよくのせて下さい。また、車輪が付いている台車等は、自走して落下しやすくなりますので作業時はキャストストップ付リフトの場合は、キャストストップを使用して下さい。



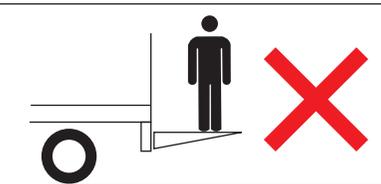
●台車の車輪は、直径15cm以下のものを使用して下さい。台車の車輪がキャストストップを乗り越えて、積荷の落下、転倒などによって思わぬ事故につながる恐れがあります。



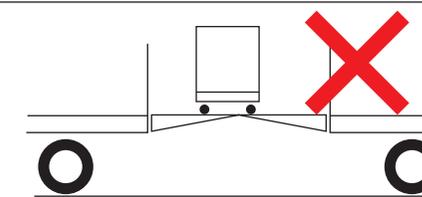
●台車を積み降ろすときは、キャストストップ付リフトテーブルではキャストストップを使用して下さい。キャストストップを使用せずに台車を積み降ろすと、台車の落下・転倒などによって思わぬ事故につながる恐れがあります。



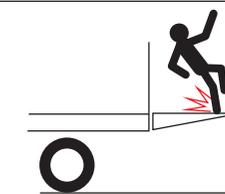
●リフトを操作するときは、リフトテーブルの上に乗らないで下さい。台車の転倒や人の落下によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



●2台のリフトを向い合せた状態で、台車を移動させないで下さい。台車の転倒によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。また、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



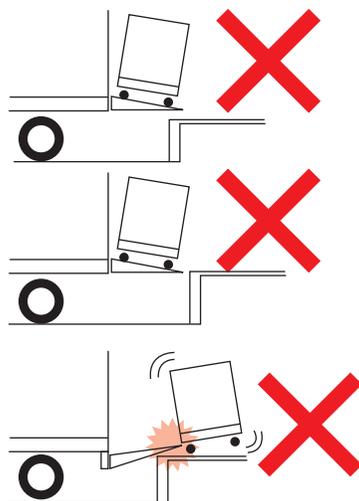
●リフトテーブルが滑りやすいときは、転倒、転落に注意して慎重に作業して下さい。積雪時、結氷時、降雨時は特に滑りやすいので足元に注意して荷役作業を行って下さい。



1. 必読! 厳守事項

⚠ 警告

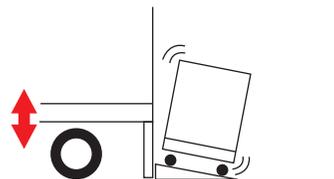
- リフトテーブルをターミナルフロアに掛ける場合、リフトテーブル先端をターミナルフロアに接地させて下さい。リフトテーブル先端を接地させずに荷移しを行うと、台車の転倒等によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。また、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



- リフトを下げるときは、リフト着地後車両のバネが戻るまでスイッチの「下げ」操作を続けて下さい。(リフト着地後2~3秒が目安) 車両のバネが戻らないまま台車を降ろすと、リフトテーブルが浮き上がり、台車が転倒する恐れがあります。



- エアサス車で台車を積み降ろしする際、車高調整システムにより車両とリフトテーブルが上下動して台車が不安定になることがあります。台車はゆっくりと押し、勢いよく移動させないようにして下さい。台車の転倒などによって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。



- 荷台およびリフトテーブルの上では、台車を引きながら移動させないで下さい。台車の転倒などによって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

- 台車を移動させるときは、ゆっくり押しして下さい。台車の落下、転倒などによって、思わぬ事故につながる恐れがあります。

- リフトテーブルを車両床面より下げているときは、荷台とリフトテーブルの段差に注意して下さい。人が車両から転倒、転落し、重大な傷害を受ける恐れがあります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) を使用中はコード付きリモコンを使用しないで下さい。また、コード付きリモコン使用中はワイヤレスリモコン (オプション) を使用しないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

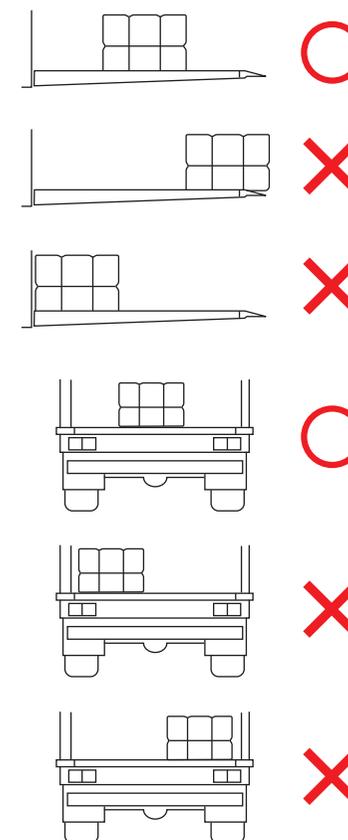
1. 必読! 厳守事項

⚠ 警告

- 1台のリフトに対して、2台以上のワイヤレスリモコン送信機 (オプション) で同時操作を行わないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 他のリフト用ワイヤレスリモコン送信機 (オプション) で操作しないで下さい。操作したいリフトが作動せずに他のリフトが作動することがあり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ワイヤレスリモコン送信機 (オプション) カバーのマグネットは強力です。心臓ペースメーカー等の体内植込型医療用電子機器を装着している方は使用しないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

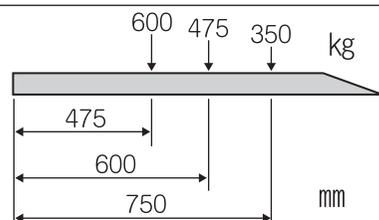
- リフトの操作を行うときは、積荷の落下、転倒等の恐れがありますので、次のことを必ず守って下さい。
 - ① 積荷はリフトテーブルの中央に載せて、片側に偏らないこと
 - ② 積荷はリフトテーブルからはみ出さないこと
 - ③ 積荷の重心は低くなるようにし、不安定な積み方は避けること
 - ④ 車両の後部の左側または右側でリフトテーブルから離れて操作すること



1. 必読! 厳守事項

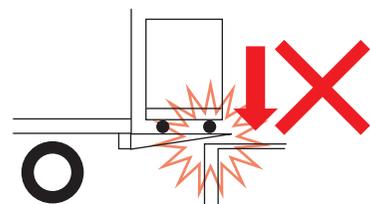
⚠ 注意

- リフトテーブルの最大荷重を守って下さい。最大荷重を超える積荷を載せると、思わぬ破損、故障の原因となります。
- リフトテーブルの最大荷重は、積荷を載せる位置によって異なります。右図をご参照下さい。

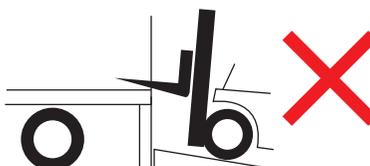


- 作業時は必ずドアをストッパーで固定して下さい。風のおおりや、作業時の状況により、不意にドアが動いて装置の損傷や思わぬ事故につながる恐れがあります。

- 荷物を載せた状態で、下げながらリフトテーブルをターミナルフロアに掛ける時は、ターミナルフロア直前で停止させ、ゆっくりとリフトテーブルを掛けて下さい。勢いよくリフトテーブルをターミナルフロアに掛けると、リフトテーブルの破損、故障の原因になります。



- リフトテーブルには、フォークリフト等で乗り上げないで下さい。リフトテーブルの破損、故障の原因となります。

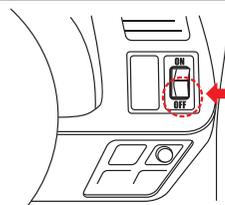


- リフトスイッチは、20秒以上押し続けないで下さい。破損、故障の原因となります。

- 「上」スイッチは上昇後に到達後2秒以内に離して下さい。押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、モーターが損傷する恐れがあります。

- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、モーターが損傷する恐れがあります。

- リフトの作業終了後は、メインスイッチを「OFF」にして下さい。リフトが誤作動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- 次のようなときは、ワイヤレスリモコン (オプション) が操作不能になることがあります。時間をおいて操作するか、コード付リモコンにて操作して下さい。

- ① 他のワイヤレスリモコンが近くで使用されている
- ② 他の無線機器が近くで使用されている

1. 必読! 厳守事項

⚠ 注意

- ワイヤレスリモコン (オプション) を直射日光の当たる場所等の温度が異常に高くなる場所に放置しないで下さい。故障の原因となります。ダッシュボード内等に収納して下さい。

- ワイヤレスリモコン (オプション) を長期間使用しない場合、電池を取外して下さい。液漏れの原因となります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) のカバーを取り付けて使用して下さい。外して使用された場合、落下などの衝撃によって故障する場合があります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) カバーのマグネットについて以下に注意して下さい。
 - ① ワイヤレスリモコン (オプション) のマグネットを携帯電話、磁気カード、乗車券、磁気テープ等の磁気記憶媒体に近づけないで下さい。記憶内容が破壊される恐れがあります。
 - ② ワイヤレスリモコン (オプション) カバーのマグネットを携帯電話、精密機器、スピーカー、CDプレーヤー、時計、ブラウン管等に近づけないで下さい。正常な動作が妨げられたり、故障したりする恐れがあります。
 - ③ マグネット同士、または他の物に吸着して強い衝撃がマグネットに加わった場合、マグネット本体、表面処理が欠ける、もしくは剥がれる場合があります。

- 次のような場所でのワイヤレスリモコン (オプション) の使用は避けて下さい。故障の原因となります。

- ① 油のかかるところ
- ② 温度が-20℃以下、+65℃以上となる場所
(温度範囲内であっても急な温度変化を与えないで下さい)
- ③ 高圧線や架線の近く (操作距離が短くなります)

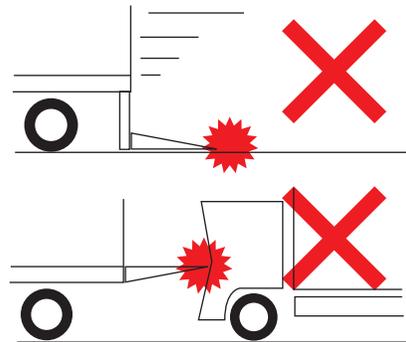
- ワイヤレスリモコン (オプション) は精密機器ですので、落としたり、激しい衝撃・振動を与えたりしないで下さい。故障の原因となります。

1.必読! 厳守事項

●走行時の注意事項

⚠ 警告

- リフトテーブルを格納していない状態では、車両を走行させないで下さい。
リフトテーブルを格納せずに車両を走行させると、リフトテーブルの破損や後続車両の衝突によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- リフトテーブルを開いたまま、車両を放置しないで下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- リフト装置に牽引ロープをかけて車両等の牽引を行うと、リフト装置の変形等を招き作動不良の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。
- 冠水路や深い水たまりは走行しないで下さい。リフトの故障につながる恐れがあります。

1.必読! 厳守事項

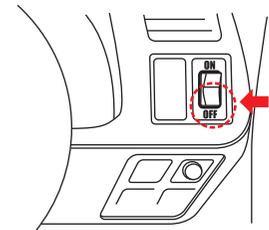
●点検整備時の注意事項

⚠ 警告

- リフトの分解・改造は、行わないで下さい。故障の原因になったり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- リフトの点検は、メインスイッチを「OFF」にしてから行って下さい。リフトが誤作動し、思わぬ事故につながる恐れがあります。



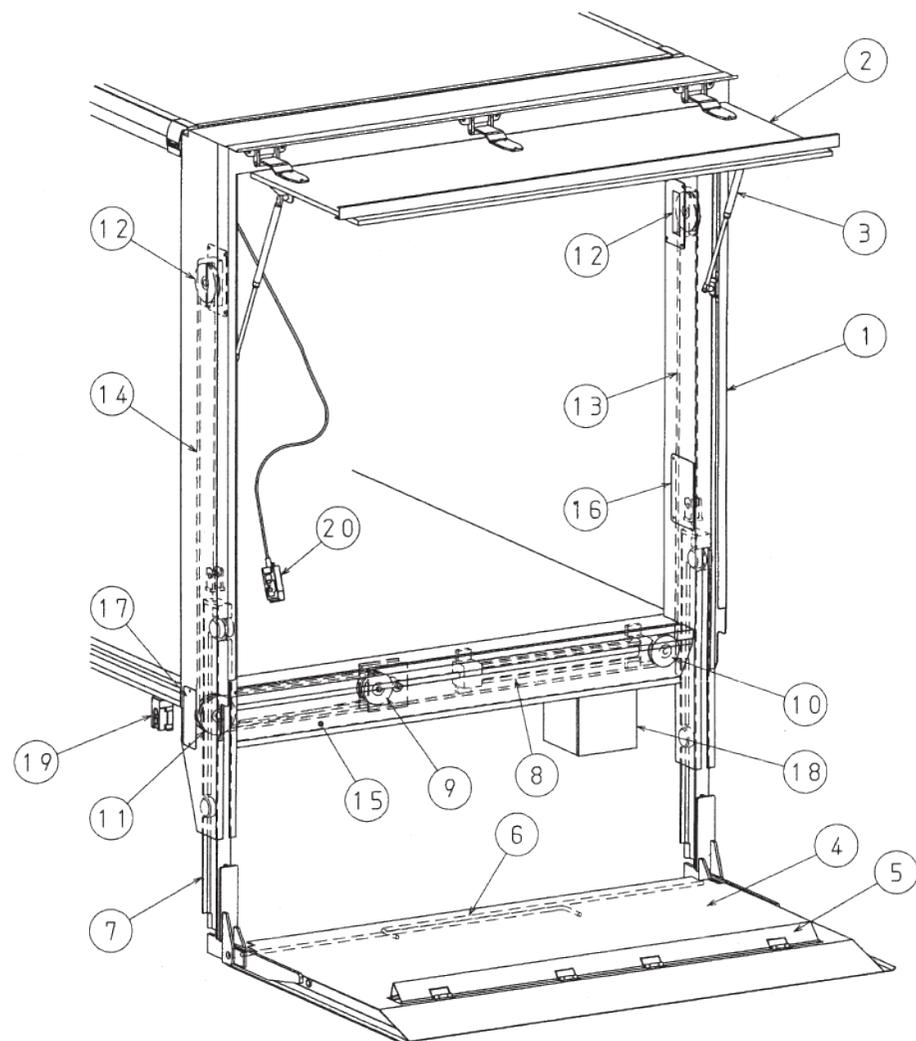
- リフトの機構部保守のため1ヶ月に1回以上、リフトを動かして下さい。
リフトを長期間使用せずに放置すると、故障の原因になります。

- 高圧洗車や蒸気洗車は行わないで下さい。故障の原因となります。

- ワイヤレスリモコン (オプション) は防滴構造ですが、水の中に浸したり丸洗いしたりしないで下さい。故障の原因となります。

2.各部の名称

●扉兼用式

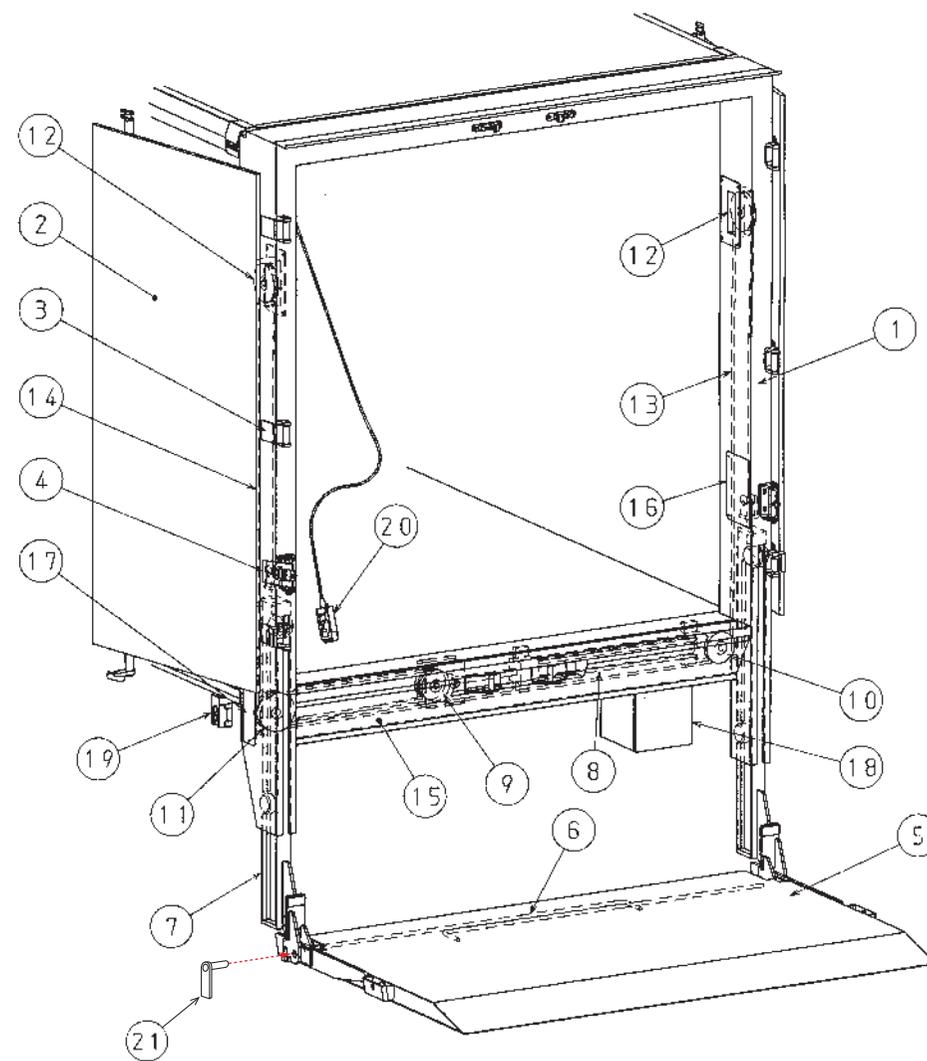


上図は標準仕様を示します。
特殊仕様の場合は図と異なる事があります。

- | | | |
|-------------|------------------|--------------|
| ① 門構 | ⑧ 油圧シリンダー | ⑮ シリンダー収納カバー |
| ② アッパードアー | ⑨ シーブASSY(シリンダー) | ⑯ 点検カバー(ワイヤ) |
| ③ ガススプリング | ⑩ シーブ(右) | ⑰ 点検カバー(シーブ) |
| ④ リフトテーブル | ⑪ シーブ(左) | ⑱ パワーユニット |
| ⑤ キャスターストップ | ⑫ シーブASSY(上) | ⑲ 操作スイッチ(室外) |
| ⑥ トーションバー | ⑬ ワイヤ(右) | ⑳ 操作スイッチ(室内) |
| ⑦ 昇降ポスト | ⑭ ワイヤ(左) | |

2.各部の名称

●観音扉後立掛式



上図は標準仕様を示します。
特殊仕様の場合は図と異なる事があります。

- | | | |
|-------------|------------------|--------------|
| ① 門構 | ⑧ 油圧シリンダー | ⑮ シリンダー収納カバー |
| ② 観音扉 | ⑨ シーブASSY(シリンダー) | ⑯ 点検カバー(ワイヤ) |
| ③ 蝶番 | ⑩ シーブ(右) | ⑰ 点検カバー(シーブ) |
| ④ テーブルロック受け | ⑪ シーブ(左) | ⑱ パワーユニット |
| ⑤ リフトテーブル | ⑫ シーブASSY(上) | ⑲ 操作スイッチ(室外) |
| ⑥ トーションバー | ⑬ ワイヤ(右) | ⑳ 操作スイッチ(室内) |
| ⑦ 昇降ポスト | ⑭ ワイヤ(左) | ㉑ ロックピン |

3.操作説明

●作業準備

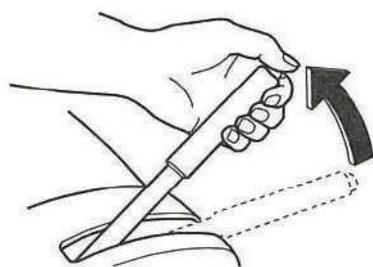


リフトを操作する前に、次のことを確認して下さい。

- リフトの操作は、傾斜地や不整地では行わないこと
- リフトテーブルを降ろす範囲内に人がいないこと
- リフトテーブルを降ろす範囲内に障害物がないこと

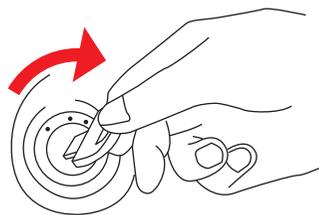
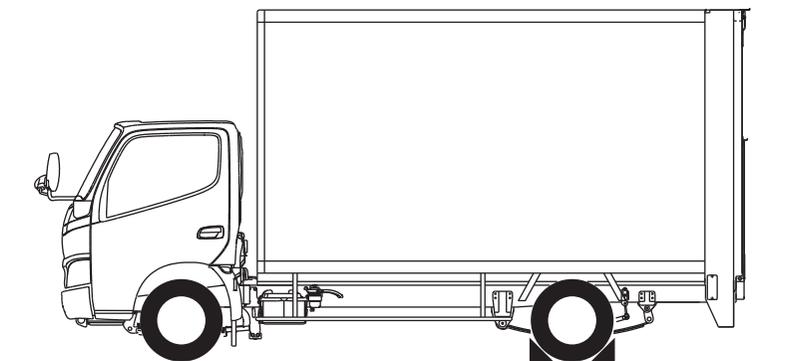
積荷の転倒・落下によって、人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

1. 車両のパーキングブレーキが確実に効いていることを確認して下さい。



2. 車両のシフトレバーを「ニュートラル」または「パーキング」の位置にして下さい。

3. 車両のタイヤに「車輪止め」をセットして下さい。



*バッテリーを保護するために、エンジンをかけた状態でのご使用をおすすめします。
但し、危険物を荷役する場合は、引火防止の為、必ずエンジンを止めて下さい。

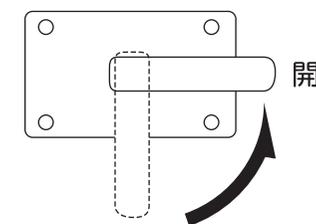
3.操作説明

●リフトテーブルを開く

1. ハンドルを解除します。

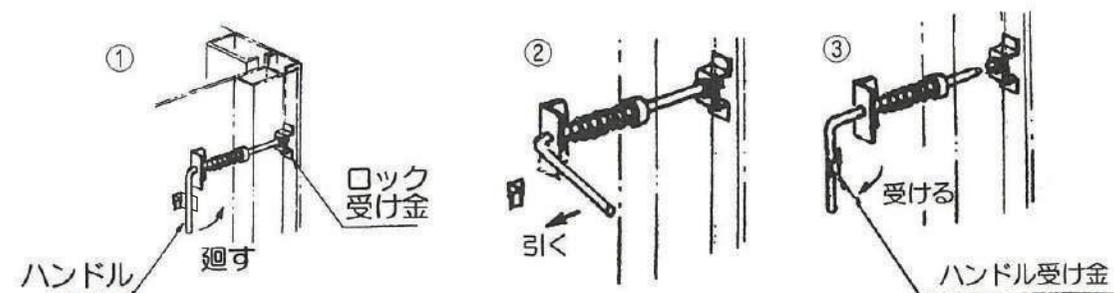
A 「ゲートロック式ハンドル仕様」

リフトテーブルのロックハンドルを「開」に回してロックを解除して下さい。



B 「丸棒式ハンドル仕様」

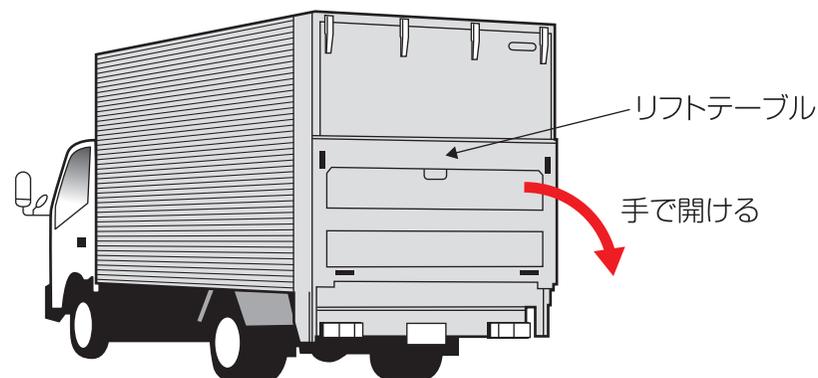
- 1) ハンドルを回し、ハンドル受け金具から外します。
- 2) ハンドルをロック受け金具から外れるまで引きます。
- 3) ロック受け金具から外れた状態のまま、ハンドルをハンドル受け金具に掛けます。
- 4) 左右のハンドル共に上記の操作を行います。



3.操作説明

2. 手でリフトテーブルを手前に倒し開いて下さい。

* 観音扉の後ろに立て掛けるタイプの場合は、テーブル根元にあるテーブル水平保持の
為のロックピンを必ずかけて下さい。



警告

ロックハンドルを「開」にする時に操作力が重い場合は、操作を一旦中段し、リフトの「リフト
テーブルを上昇させる」の操作を行った後、ロックハンドルを「開」にして下さい。
ロックハンドルの操作力が重いままロックを解除するとリフトテーブルが急降下する恐れが
あります。

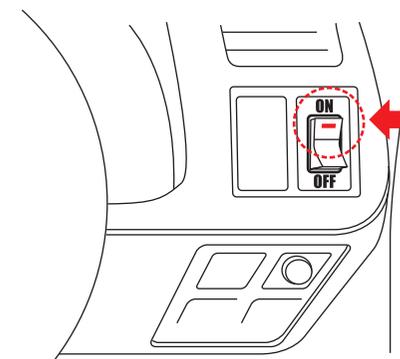
注意

- リフトテーブルを開ける時は、テーブルの重量が操作者にかかります。ご自身や周囲の安全に注意して下さい。
- リフトテーブルを開ける時は、勢いよく開けないで下さい。衝撃を与えますと、リフトを損傷する恐れがあります。
- 観音扉の後に立て掛けるタイプの場合は、必ずテーブル水平保持の為のロックピンを掛けて下さい。テーブルが前のめりになる恐れがあります。

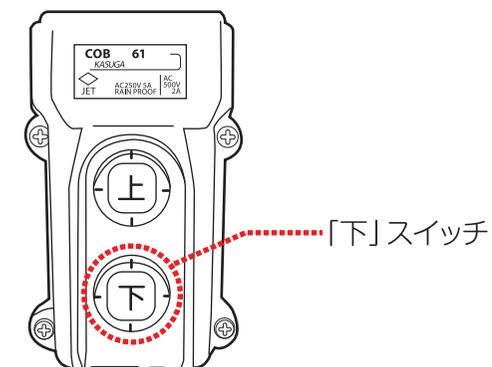
3.操作説明

●リフトテーブルを下降させる

1. メインスイッチを「ON」にして下さい。



2. 室外のリモコンスイッチ又は、室内のリモコンスイッチの「下」スイッチを押すとリフトが下降します。

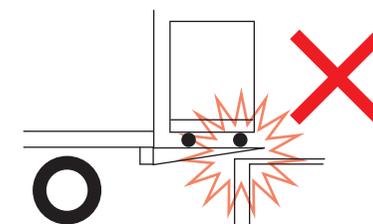


警告

リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。
思わぬ事故につながる恐れがあります。

注意

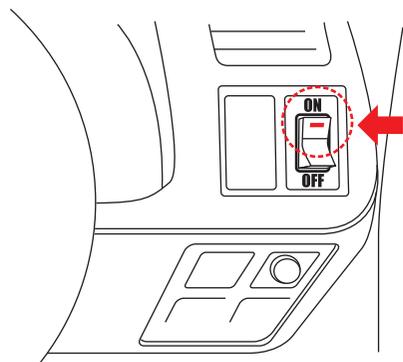
荷物を載せた状態で、下げながらリフトテーブルをターミナルフロアに掛ける時は、ターミナルフロア直前で停止させ、ゆっくりとリフトテーブルを掛けて下さい。
勢いよくリフトテーブルをターミナルに掛けるとリフトテーブルの破損、故障の原因となります。



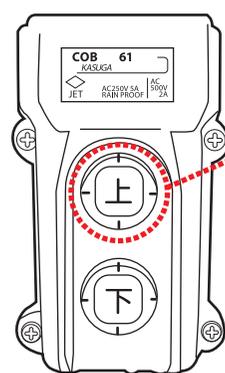
3.操作説明

●リフトテーブルを上昇させる

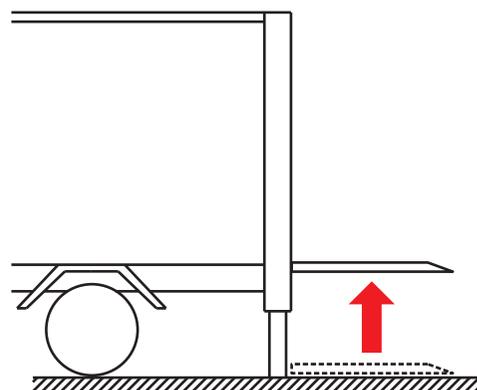
1. メインスイッチを「ON」にして下さい。



2. 室外のリモコンスイッチ又は、室内のリモコンスイッチの「上」スイッチを押します。



「上」スイッチ



⚠ 警告

リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- 扉が観音扉の場合は、必ず270°開止めストッパで扉を固定して操作して下さい。扉の開きが足りないとリフトテーブルやリヤ扉を損傷する原因となります。
- 「上」スイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。破損、故障の原因となります。
- 「上」スイッチは、上昇端に到達後2秒以内に離して下さい。押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。
- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。

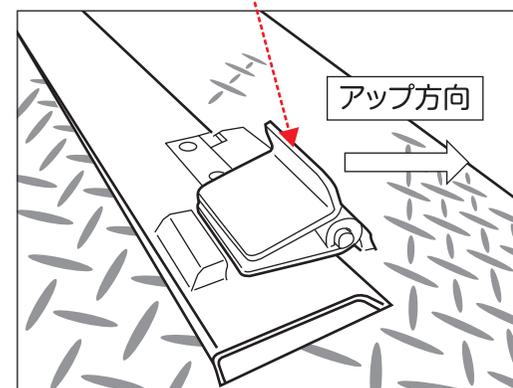
3.操作説明

●キャストーストッパ(オプション)使用方法について

「台車を降ろす時」

1. ストッパロックを足で「アップ」方向に動かして下さい。キャストーストッパが跳ね上がります。

ストッパロック キャスターストッパ



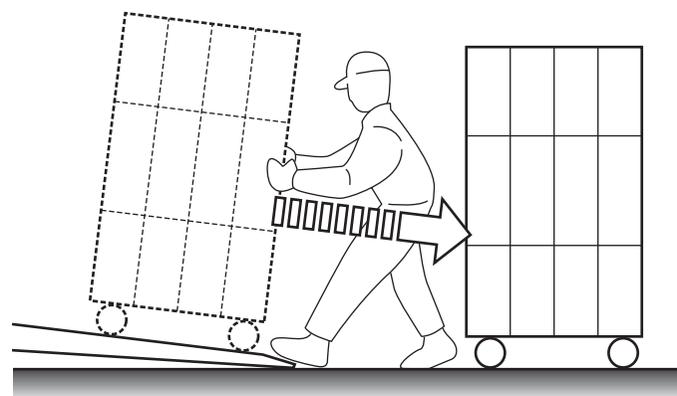
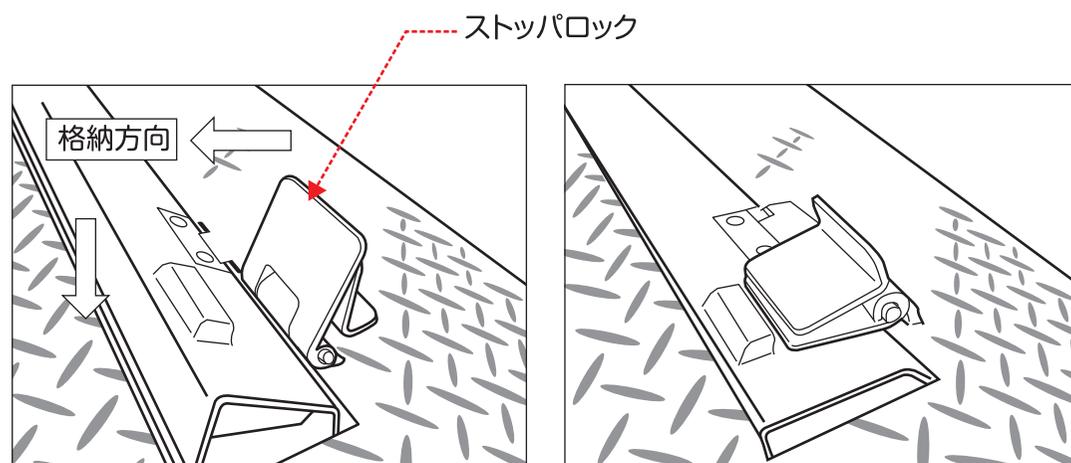
2. 台車を車両の荷台からリフトテーブルに移動させて下さい。
3. リフトテーブルを下降させて下さい。

⚠ 警告

リフトテーブルを下げる時は、リフトテーブル着地後車両のばねが戻るまで「下げ」操作を続けて下さい。(リフトテーブル着地後2~3秒が目安)
車両のばねが戻らないまま台車を降ろすと、リフトテーブルが浮き上がり、台車が転倒する恐れがあります。

3.操作説明

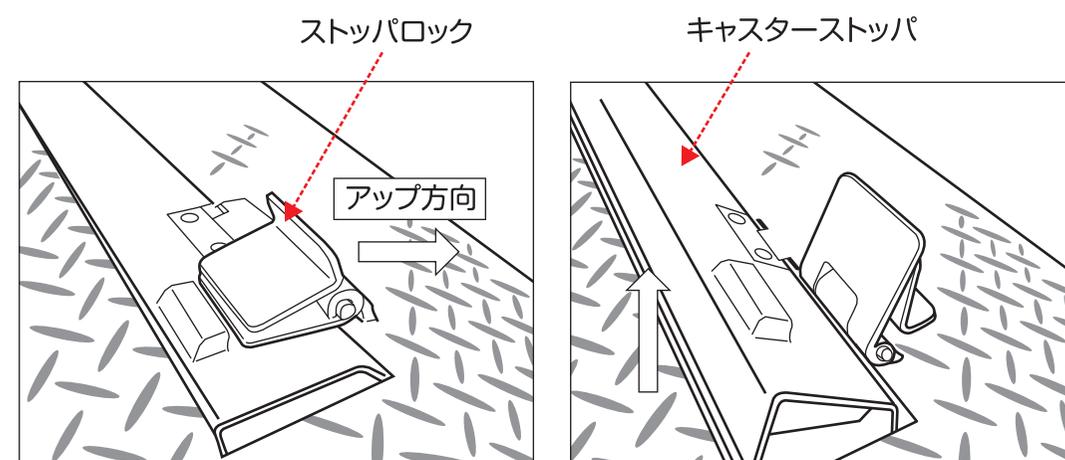
4. 台車をリフトテーブル根本側に押し支えた状態で、キャストストップを足で踏みながらストップロックを足で「格納」方向に動かして下さい。キャストストップが格納した状態で固定され、リフトテーブルから台車を降ろすことができます。



3.操作説明

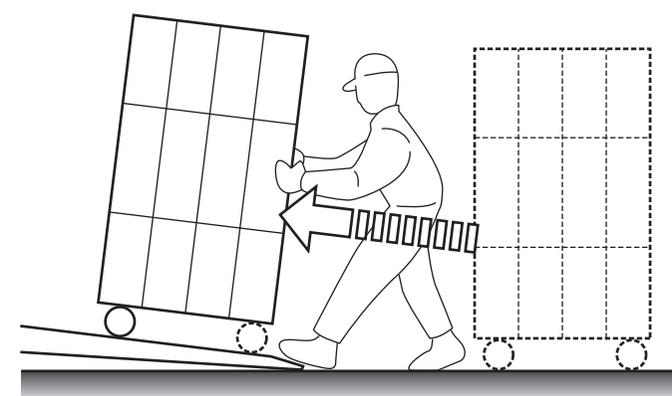
「台車を積み込む時」

1. ストップロックを「アップ」方向に足で動かして下さい。キャストストップが跳ね上がります。



*キャストストップを足で踏んでも、キャストストップは「格納」位置でロックされません。

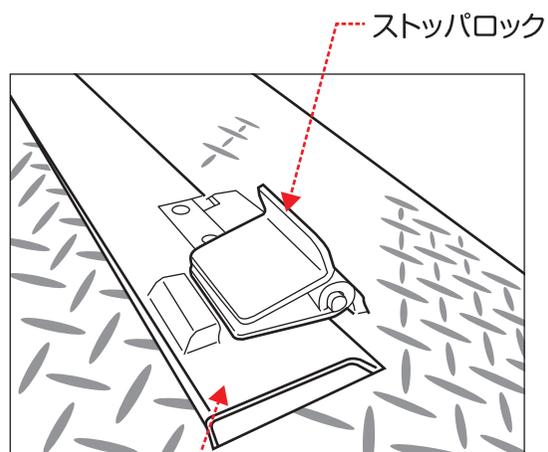
2. 台車をリフトテーブルに積み込んで下さい。



3. リフトテーブルを上昇させて下さい。
4. 台車を荷台に積み込んでから、リフトテーブルを下降させて下さい。

3.操作説明

5. キャスターストップを足で踏みながらストップロックを足で「格納」方向に動かしてキャスターストップを格納状態で固定して下さい。

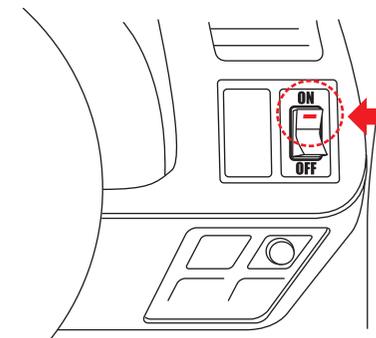


キャスターストップ
格納状態で固定

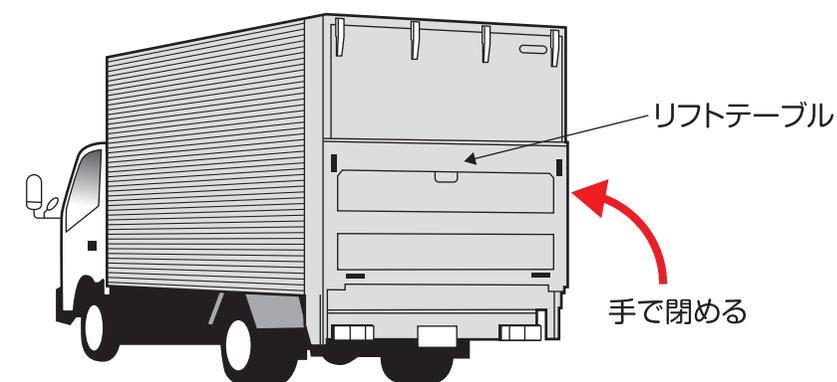
3.操作説明

●リフトテーブルを閉じる

1. リフトメインスイッチを「ON」にして下さい。



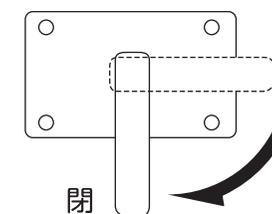
2. 室外のリモコンスイッチ又は室内のリモコンスイッチの「上」スイッチを押してリフトテーブルを上限まで上昇させて下さい。
3. 手でリフトテーブルを持ち上げて閉めて下さい。



4. ハンドルをロックします。

A「ゲートロック式ハンドル仕様」

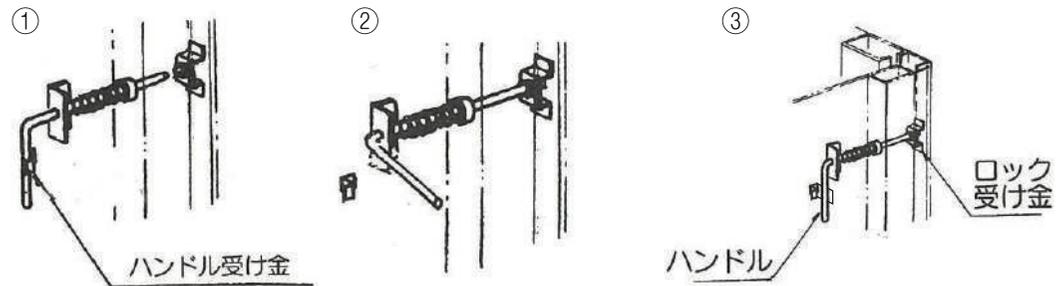
- 1) リフトテーブルを手で押さえたまま、リフトテーブルロックハンドルを「閉」に回してロックして下さい。
2) ラッチがリフトロック受けにかかりリフトテーブルが開かないことを確認して下さい。



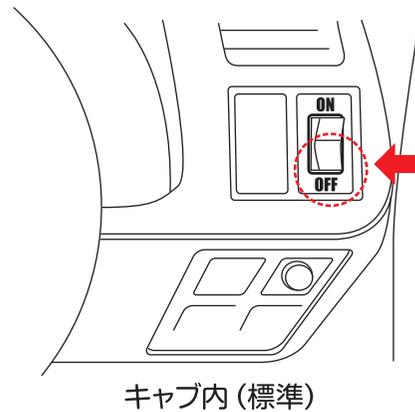
3.操作説明

B「丸棒式ハンドル仕様」

- 1) リフトテーブルを手で押さえたまま、ハンドルを回してロック受け金にかけて下さい。
ロックがかかったらハンドルを回してハンドル受け金にかけて下さい
- 2) ハンドルがリフトロック受けにかかりリフトテーブルが開かないことを確認して下さい。
- 3) 左右のハンドル共に上記の操作を行います。



5. メインスイッチを「OFF」にして下さい。



警告

- リフトを操作する時は、車両の周辺に人がいないこと、障害物がないことを確認して下さい。思わぬ事故につながる恐れがあります。

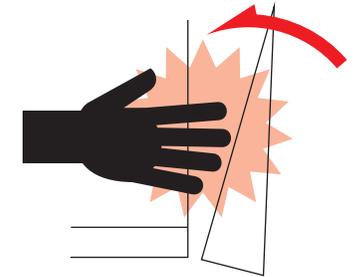
注意

- 「上」スイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。破損、故障の原因となります。
- 「上」スイッチは、上昇中に到達後2秒以内に離して下さい。
押し続けると、パワーユニット内のモーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。
- 短時間で繰り返し昇降操作を行うと、モーター温度が上昇し、破損、故障の原因となります。

3.操作説明

警告

リフトテーブルを閉じるときは、周囲の状況に注意して操作して下さい。
特に手や足などの身体の一部をはさみこまないように注意して下さい。



注意

- リフトテーブルを閉じるときは、荷台内の積荷の固縛が確実に行われているか、荷台内に人がいないか確認して行って下さい。

3.操作説明

●車両の走行について

⚠ 警告

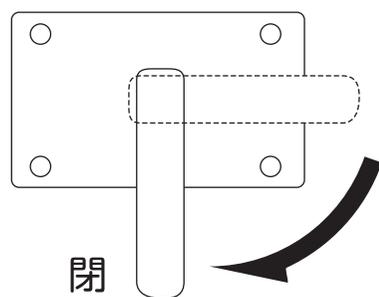
- リフトテーブルを格納していない状態では、車両を走行させないで下さい。
リフトテーブルを格納せずに車両を走行させると、リフトテーブルの破損や後続車両の衝突によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 台車をリフトテーブルに積み込んでいる状態では、車両を走行させないで下さい。台車の転倒や落下によって、思わぬ事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

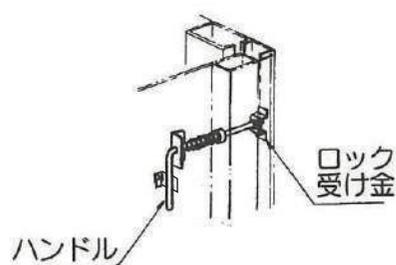
- 悪路や段差を走行するときは、徐行して下さい。
リフトが地面に接触し、破損、故障の原因となります。
- リフト装置に牽引ロープをかけて車両等の牽引を行うと、リフト装置の変形等を招き作動不良の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。
- 冠水路や深い水たまりは走行しないで下さい。
リフトの故障につながる恐れがあります。

1.リフトテーブルロックが「閉」の位置でロックしていることを確認して下さい。
ラッチがロック受けにかかりリフトテーブルが開かないことを確認して下さい。

A 「ゲートロック式ハンドル仕様」

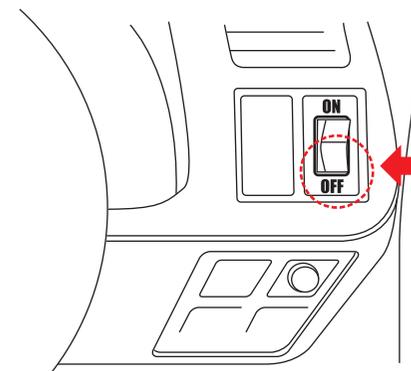


B 「丸棒式ハンドル仕様」

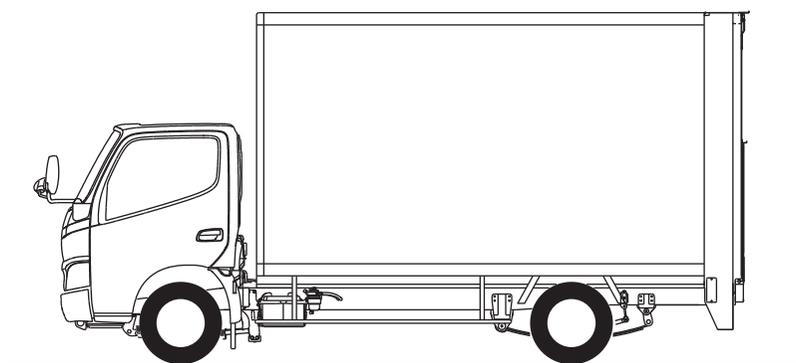


3.操作説明

2.メインスイッチが「OFF」になっていることを確認して下さい。



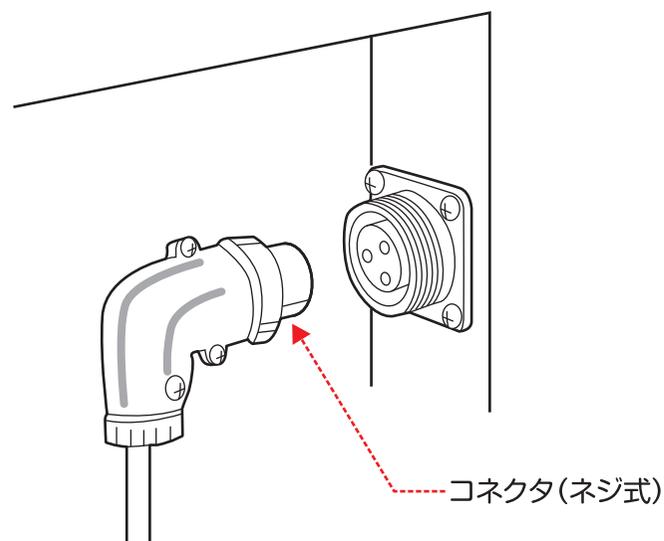
3.車輪止めを外して所定の場所に戻して下さい。



3.操作説明

●室内リモコンスイッチについて(コネクタ式はオプション)

- 1.室内リモコンスイッチの取り付け
リモコンスイッチのコネクタ(ネジ式)を取り付けて下さい。
- 2.室内リモコンスイッチの取り外し
室内リモコンスイッチのコネクタ(ネジ式)を取り外して下さい。



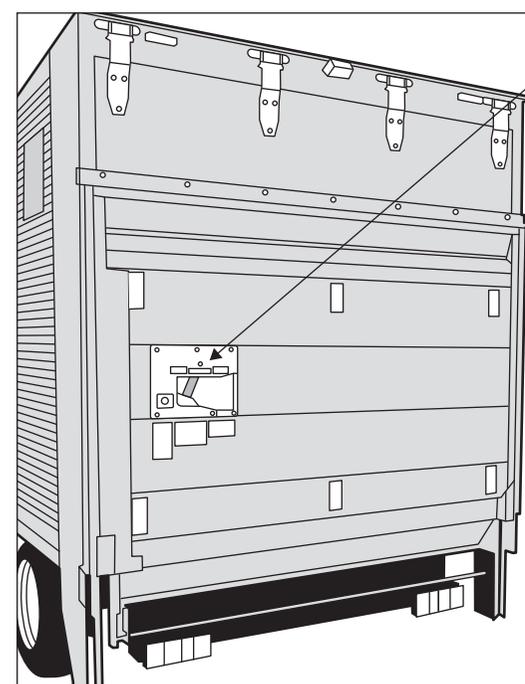
⚠ 注意

- 車両の扉や荷物等でリモコンスイッチの配線をはさまないように注意して下さい。配線が断線する恐れがあります。

3.操作説明

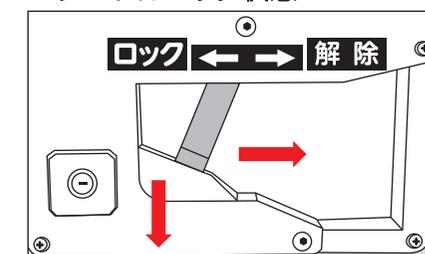
●自動起立装置付きテーブル(オプション)の操作方法

- 1.テーブルの開き方
 - 1)メインスイッチを「ON」にして下さい。
 - 2)テーブルロックを解除して下さい。
 △注意:自動でテーブルが開きながら下がります。後方に十分なスペースの確保と、人が居ない事を確認してから次の動作に移して下さい。



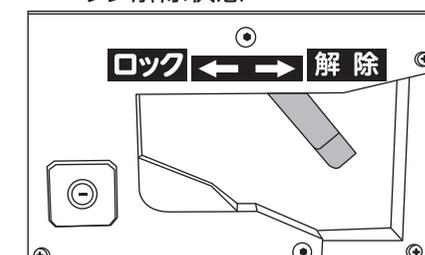
リフトテーブルロック

▼テーブルロック状態

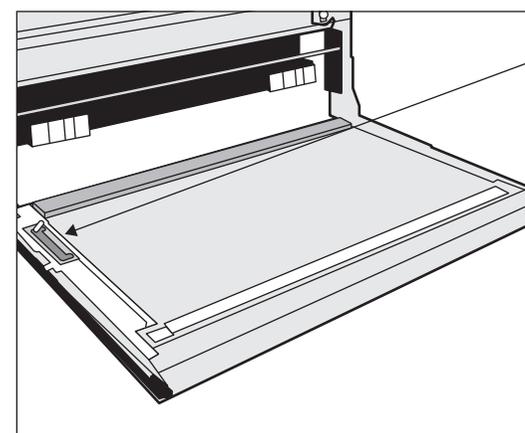


※レバー固定台を下方に押しながら解除します

▼ロック解除状態



- 3)室外リモコンスイッチの「下」を押すとリフトテーブルが自動で開きながら下がります。そのまま地面まで降して下さい。
- 4)テーブルが地面まで降りたら、切替えレバーを「荷役」に切替えて下さい。



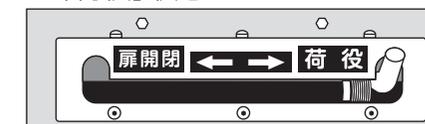
切替えレバー

▼「扉開閉」状態



※レバーを下に倒しながらスライドします

▼「荷役」状態



△注意:切替えレバーは確実に切替えて下さい。間違った使用により、装置を破損してしまう恐れがあります。

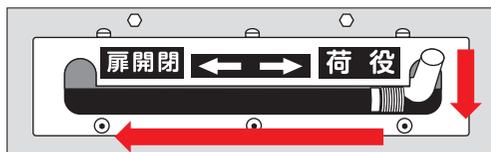
3.操作説明

2.テーブルの閉め方

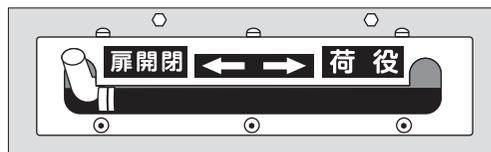
- 1) テーブルを地面まで降ろして下さい。
※ テーブル上面に荷物が無い事を確認して下さい。
- 2) テーブルが地面に接地状態で、切替レバーを「扉開閉」に切替えて下さい。

切替レバー

▼「荷役」状態



▼「扉開閉」状態



※レバーは下に倒しながらスライドします

△注意:切替えレバーは確実に切替えて下さい。間違った使用により、装置を破損してしまう恐れがあります。

- 3) 室外リモコンスイッチの「上」を押すとリフトテーブルが上がりながら起立していき、閉まります。

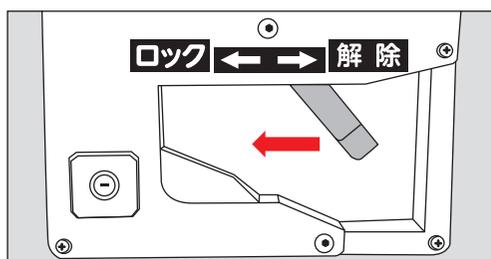
△注意:自動閉動作の途中で「上」ボタンを離してしまった場合は、再度地面までテーブルを降ろしてから操作して下さい。反動で思わぬ故障に繋がる恐れがあります。

△注意:「上」スイッチは、20秒以上押し続けしないで下さい。破損、故障の原因となります。テーブル全閉後は2秒以内にスイッチを離して下さい。

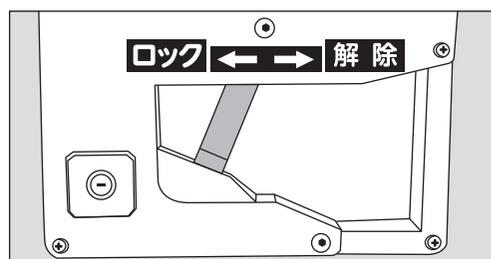
- 4) テーブルロックを閉めます。

リフトテーブルロック

▼ロック解除状態



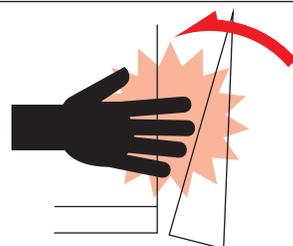
▼テーブルロック状態



※レバーをロック位置まで動かすと、レバー先端が固定台溝に差し込まれます



リフトテーブルを閉じるときは、周囲の状況に注意して操作して下さい。
特に手や足などの身体の一部をはさみこまないように注意して下さい。



4.点検・整備

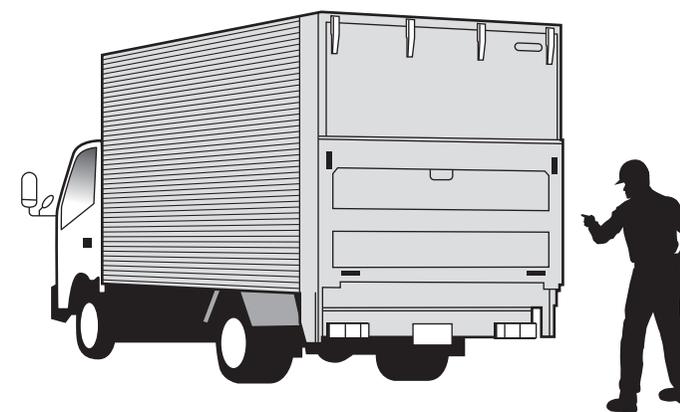
リフトの性能を十分に発揮させ、また安全で快適にご使用頂くためには、日頃からの点検とお手入れが重要になります。

日頃からの点検とお手入れが、リフトの寿命を長くすることにつながります。

●日常(運行前)点検

- 日常(運行前)点検は、道路運送車両法(第47条の2)により運転者に義務付けられています。
- 点検項目は「日常(運行前)及び定期点検表」に記載しています。

ただし、リフト以外の項目については、車両および装置メーカー発行の「日常(運行前)及び定期点検表」をご覧ください。



点検・整備を行う場合は、危険を避けるため下記事項を守って下さい。

- 車両は水平で平坦な場所に置いて下さい。
- パーキングブレーキを掛け、車両のタイヤには車輪止めをして下さい。
- 作業は、荷物等でリフトに負荷をかけないで行って下さい。

●定期点検

- 定期点検は、道路運送車両法(第48条)により運転者に義務付けられています。
- 点検項目は、「日常(運行前)及び定期点検表」に記載しています。

4.点検・整備

●日常(運行前)及び定期点検表

点検箇所	点検項目	点検方法	日常点検	定期点検		定期交換
				1ヶ月毎	6ヶ月毎	
ワイヤ	素線切れ、毛羽立ち 腐食・錆 形くずれ	門構ポスト内部の目視 (次頁「ワイヤ点検」参照)	○		○	2年毎
	摩耗、直径の減少 端末金具の異常	門構ロワ内部の目視 (次頁「ワイヤ点検」参照)			○	
シーブ ブッシュ	割れ、変形、摩耗	・リフトテーブルを昇降 ・目視			○	2年毎
リフト テーブル	変形、傾き	・リフトテーブルを昇降、開閉 ・目視	○		○	
リフトテー ブル ロック	ロックレバーのガタ	・ロックレバーを操作 ・目視	○			
	ブラケットの変形		○			
	変形、錆、スプリ ングのへたり		○			
	ボルト類のゆるみ		○			
リフトテー ブルの軸受部	軸受(ブッシュ)の 変形、摩耗	・リフトテーブルを開閉 ・目視			○	
キャスター ストッパ	キャスターストッパ の機能	・アップ操作の動作確認 ・ロック操作の動作確認	○			
トーション バー	変形、損傷	・目視			○	
安全装置	バー、アームの変 形作動	・目視	○			
	作動	・安全バーを上げた状態 でリフトテーブルが 上昇しないことを確認 下降することを確認	○			
油圧部品	パワーユニット、シリ ンダの油漏れ、異音	・リフトテーブルを昇降 ・目視	○			
	作動油量、汚れ	・目視			○	1年毎
	油圧ホースの油も れ、変形、ひび割れ	・目視	○			2年毎
電気部品	メインスイッチ、リモ コンスイッチの機能確認	・リフトテーブル昇降 ・目視	○			
	コードのねじれ、変形	・目視	○			
	コネクタの接続	・目視			○	
	バッテリーコードの損傷	・目視			○	
ボルト・ナッ ト類	ゆるみ、脱落	・リフトテーブルを開閉 ・昇降 ・目視			○	

4.点検・整備

■日常の点検

点検項目	点検内容
使用前点検	使用する前には、必ず空荷で操作を行い、正常に機能するかどうかをお確かめ下さい。
洗車の際のご注意	洗車する際には、モーター、スイッチ、ソレノイドリレーなど電気関係部品に直接、水を掛けない様にご注意して下さい。 特に圧力のある水を吹き付けますと絶縁不良を起こしたり、故障の原因になることがあります。
滑動部分汚れについて	滑動部分の汚れの有無 特にシリンダーピストンロッド部に傷をつけたり泥等の汚れがついたままでの使用は、内部シート・パッキンなどを傷付け、油漏れの原因となりますのでご注意ください。
細部点検項目	<ul style="list-style-type: none"> ●各締め付け部品の緩み・破損・脱落 ●配線端子の汚れ・緩み・破損・脱落 ●リモコンスイッチの破損及び配線コードの被覆破れ ●油の漏れ、にじみの確認 ●油量の確認(テーブルを接地させた状態での確認) ●操作スイッチによる機能の確認 ●安全バー機能の確認(オプション) ●キャスターストッパー機能の確認(オプション)

⚠ 注意

- 点検作業を行う時はリフト装置及び電気回路等の万一の誤作動に対して十分に注意して下さい。
- リモコンスイッチの破損や配線コードの被覆の破れがあるとショートによる車両火災が発生する恐れがあります。

4.点検・整備

●ワイヤの点検と交換

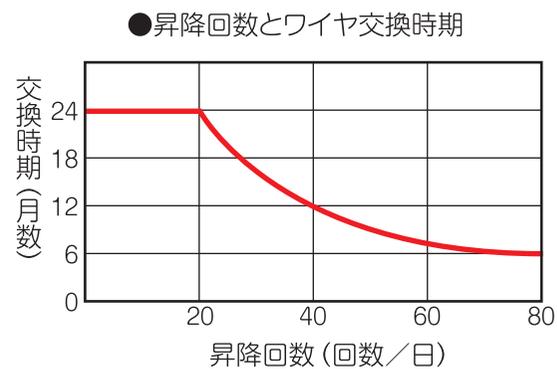
1. リフト使用前には必ずリフトテーブルを下げた状態で、門構のポスト内及びロウ内のワイヤに損傷がないか確認して下さい。

- 1週間に1度ワイヤに給脂して下さい。
- 6ヶ月毎にカバーを取り外し、内部のワイヤに摩耗や損傷が無いか確認し、異常がある場合は使用を中止して、すみやかにワイヤを交換して下さい。
- ワイヤの交換基準は最長2年間を限度としています。リフトの昇降回数は、20回/日を目安としていますが、使用頻度が高い場合は、別表の「昇降回数とワイヤ交換時期」に従い交換して下さい。
- ワイヤの交換時は、シーブ・ブッシュ・シーブ軸も合わせて交換して下さい。

(1) ワイヤの損傷



(2) 昇降回数とワイヤの交換時期



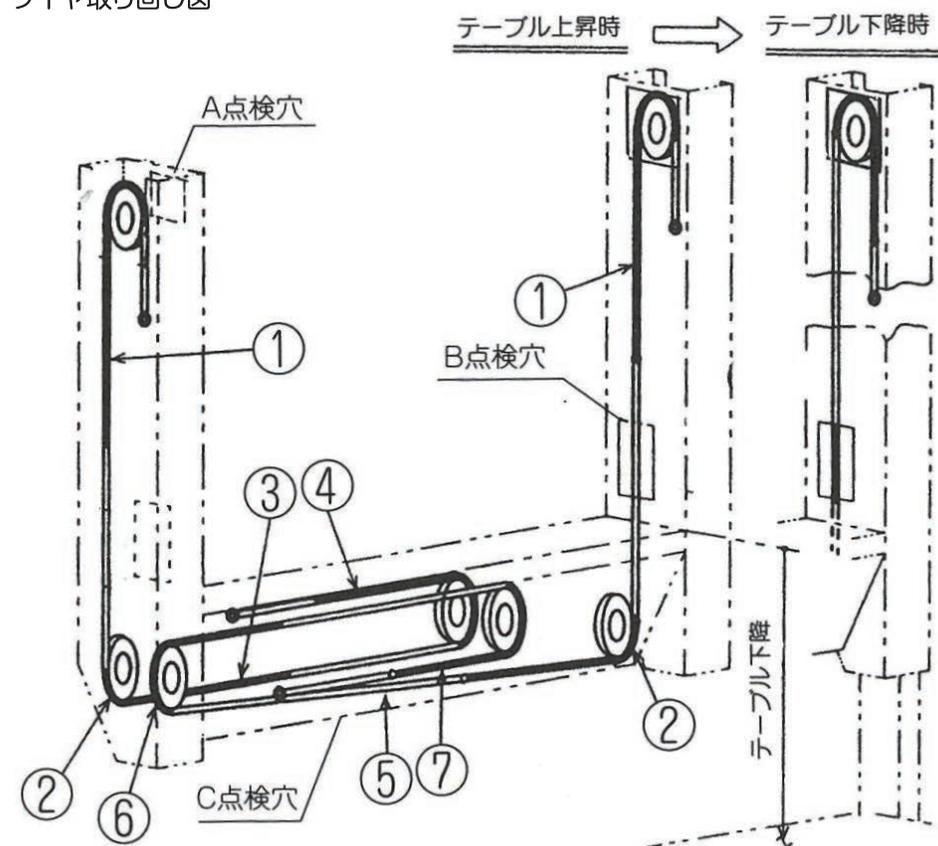
※上記グラフに基づき昇降回数からワイヤの交換時期を算出して下さい

4.点検・整備

2. ワイヤの点検は、A、B、Cの点検口により行います。

- 1) リフトテーブルの上昇・下降に伴いワイヤも移動します。下図の黒印部分はシーブと接触する部分であり、それぞれ点検口A、B、Cから点検することができます。
- 2) ①の部分は、点検口Aからリフトテーブルを上昇下降させると目視することができます。
- 3) ②の部分は、点検口Bからリフトテーブルを下降させると目視することができます。
- 4) ③、④ (左ワイヤ)、⑤・⑥・⑦ (右ワイヤ) は、点検部Cより目視することができます。

ワイヤ取り回し図



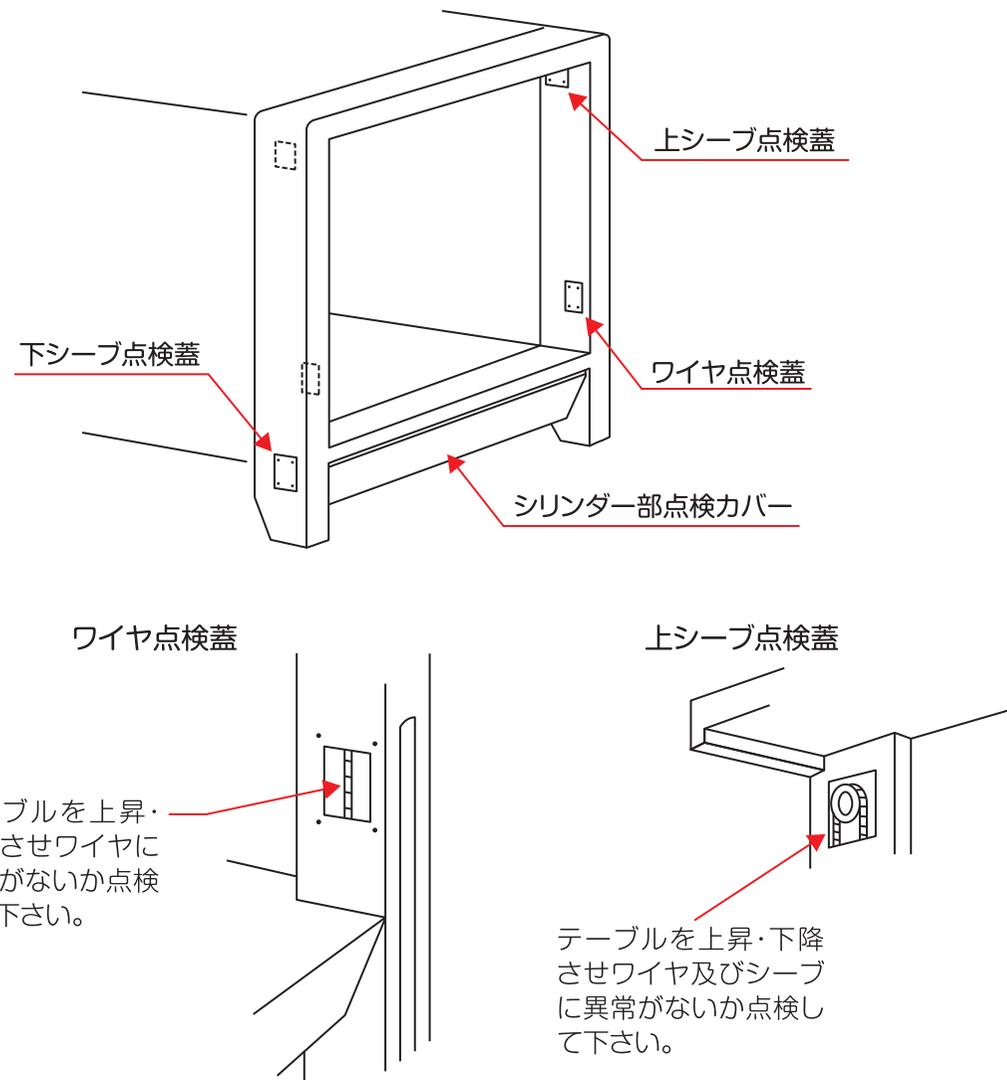
⚠ 警告

- リフトテーブルは、ワイヤで支えられています。ワイヤが切断するとリフトテーブルが落下して人が重大な傷害を受ける恐れがあります。

4.点検・整備

3.門構ポスト部のワイヤ点検・シーブ点検箇所

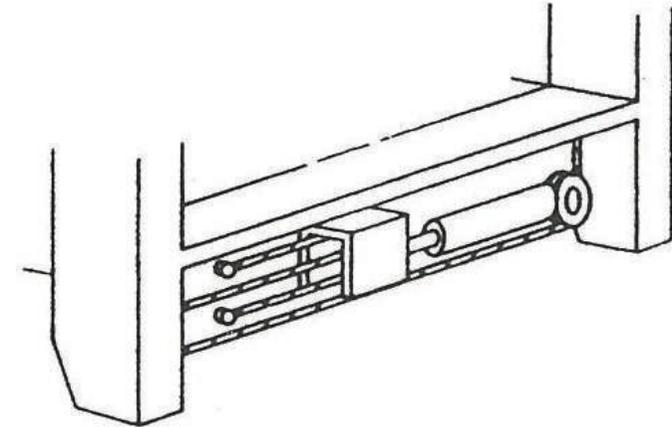
- 1)ワイヤ点検蓋を取り外し、リフトテーブルを上昇・下降させ、ワイヤに異常がないか点検して下さい。
- 2)上下シーブ点検蓋を取り外し、リフトテーブルを上昇・下降させ、ワイヤ及びシーブに異常がないか点検して下さい。



4.点検・整備

4.門構ロワ部のワイヤ点検・シーブ点検箇所

- 1)門構ロワ部(シリンダ部点検カバー)を取り外し、リフトテーブルを上昇・下降させワイヤに異常がないか点検して下さい。



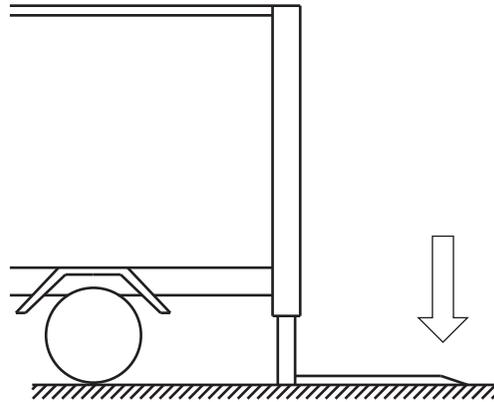
4.点検・整備

●給油・給脂

「給油（補充・交換）」

油量の不足・油の汚れはリフトの自然落下・オイル漏れ・油圧装置故障の原因となりますので油量の点検及び定期的な交換を行って下さい。

1. リフトテーブルを下降させ、着地させて下さい。



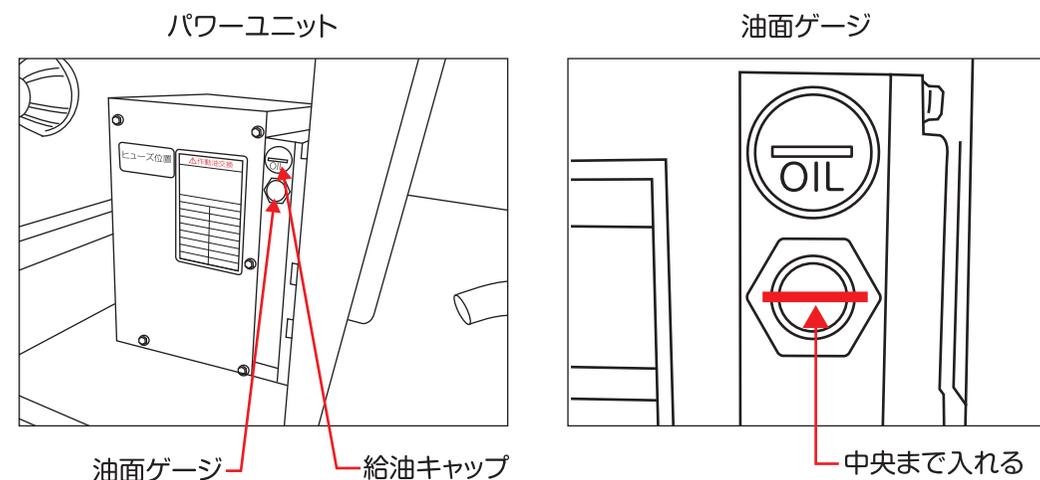
*オイルレベルの確認は、平坦な場所でリフトテーブルが着地するまで下降させてから行って下さい

2. パワーユニットの前面の蓋を外して下さい。

3. 給油キャップを外して、油面ゲージの中央まで給油して下さい。

（作動油交換時に使用するドレンプラグはパワーユニット下面にあります）

4. 給油キャップを締めて下さい。



4.点検・整備

リフトの故障を未然に防ぎ、寿命を長くする為には、定期的な作動油の交換が必要です。交換時期については下表をご参照下さい。

●作動油の交換時期

時 期		種 類	粘 度
1回目	使用開始から 3ヶ月後	耐摩耗性作動油	ISO VG22相当
2回目以降	1年毎		

- 注油の際には、150メッシュ以上のフィルターを通した清浄な作動油を使用して下さい。
- 作動油の注入後は、リフトテーブルの上昇・下降を繰り返して回路内のエア抜きをして下さい。
- 作動油は下表のもの（推奨）を使用して下さい。

コスモ石油	コスモハイドロ HV22
JX日鉱日石エネルギー	ハイランドワイド 22
出光興産	ダフニースーパーハイドロST VG22
昭和シェル石油	シェルテラスS2M 22

⚠ 注意

- リフトの使用頻度が多く、作動油の汚れがひどい場合や粘度が異常に変化した場合には、上表の期間内であっても早期に作動油を交換して下さい。
- 冬期温度が0℃以下に下がることの多い地域で使用するときは、ISO VG15相当の作動油を使用して下さい。

4.点検・整備

「給脂(グリスアップ)」

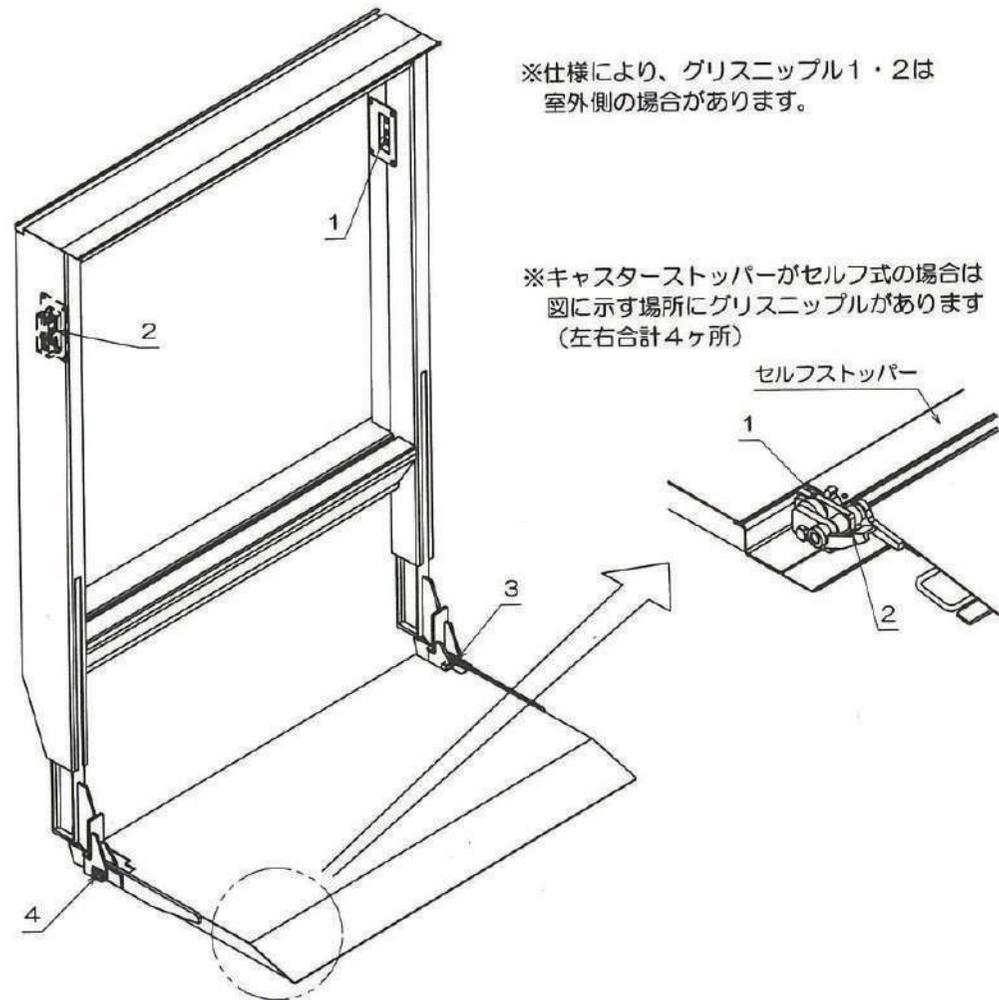
リフトの故障を未然に防ぎ、寿命を長くするためには、定期的な給脂が必要です。
給脂(グリスアップ)時期については、下表をご参照下さい。

時期	容量	種類
3ヶ月毎	適量	リチウムグリス1(もしくは2)

※カルシウムグリスは耐熱温度が60℃までですので使用しないで下さい

1. グリスニップル位置

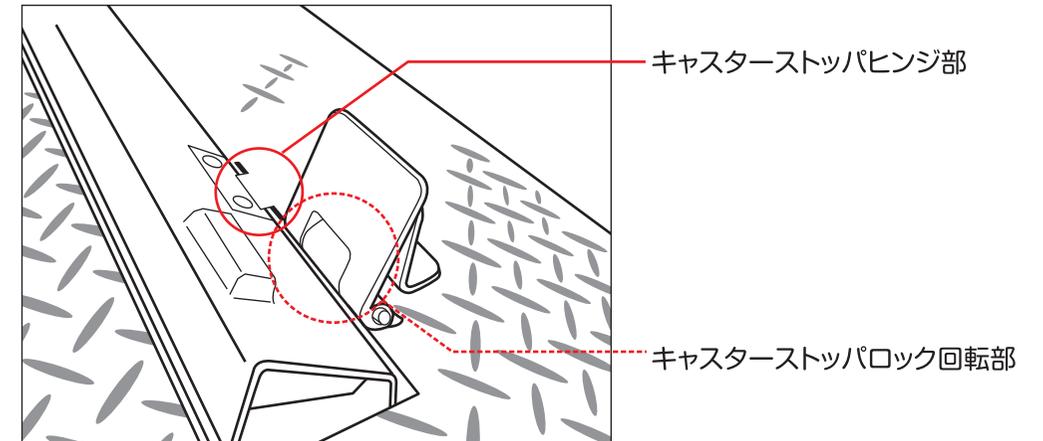
下図に示す4ヶ所にグリスニップルがあります。グリスガン等を使用して新しいグリスが出てくるまで十分に給脂を行って下さい。



4.点検・整備

2. キャスターストッパー・メカ部

スプレー式グリス(リチウム系)で直接塗布します。



⚠ 警告

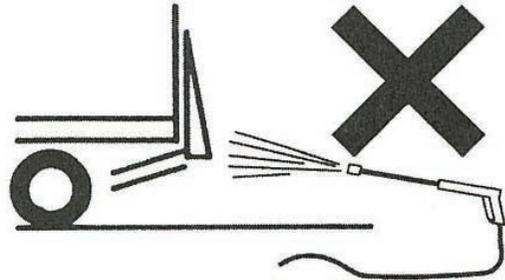
給脂(グリスアップ)を行わないとスムーズに作動しない、異音が出る、軸が摩耗しリフトテーブルが床面まで上がらなくなる、軸が焼き付いてしまう等、リフト本体の寿命を縮めてしまうばかりか、ケガや事故につながる恐れがあります。

4.点検・整備

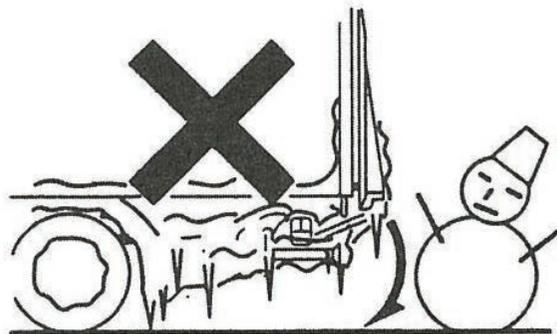
●洗車

⚠ 注意

- リモコンスイッチやシリンダには直接水をかけないで下さい。故障の原因となります。
- 高圧洗車や蒸気洗車は行わないで下さい。故障の原因となります。



- リフトメカやリフトテーブル等に付着した雪や泥等を取り除いて下さい。雪や泥が付着した状態でリフトを操作すると、誤作動によって部品やボデーが破損する恐れがあります。



- 凍結防止剤が散布されている道路を走行したときは、塩分による錆び等を防ぐため、なるべく早く洗車を実施して下さい。

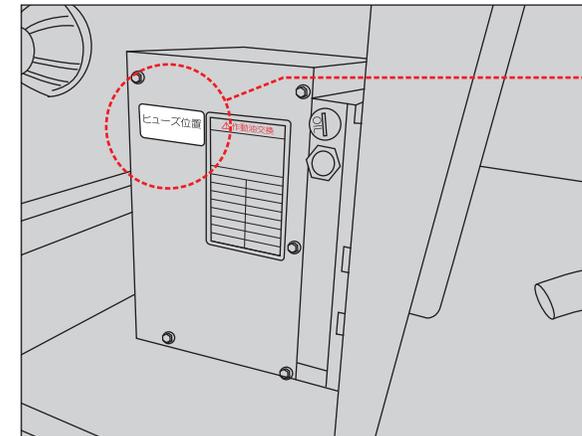
※リフトの洗車を行ったあとは、給脂（グリスアップ）を行って下さい。

4.点検・整備

●ヒューズ

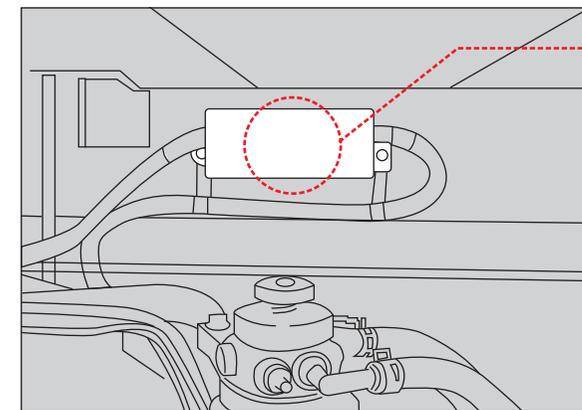
パワーユニット内、メガヒューズボックス内にリフト専用のヒューズを取り付けしています。

「パワーユニット」

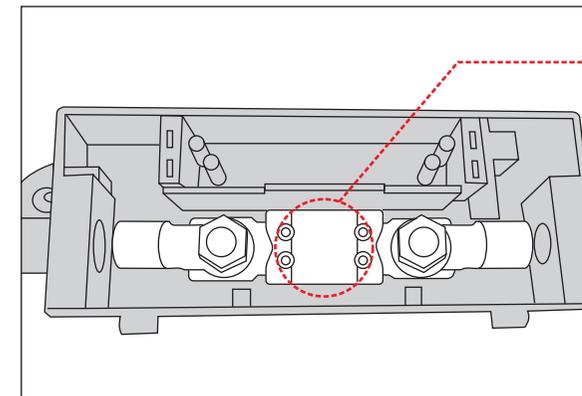


ミニブレードヒューズ (10Aミニ平型)
(パワーユニット内)

「メガヒューズ」



メガヒューズボックス
(バッテリーコードラインに取り付け)



メガヒューズ
24V車:100A
12V車:200A

*キャブ内のリフトメインスイッチをONにしてもパイロットランプが点灯しない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。

トラブルチェック

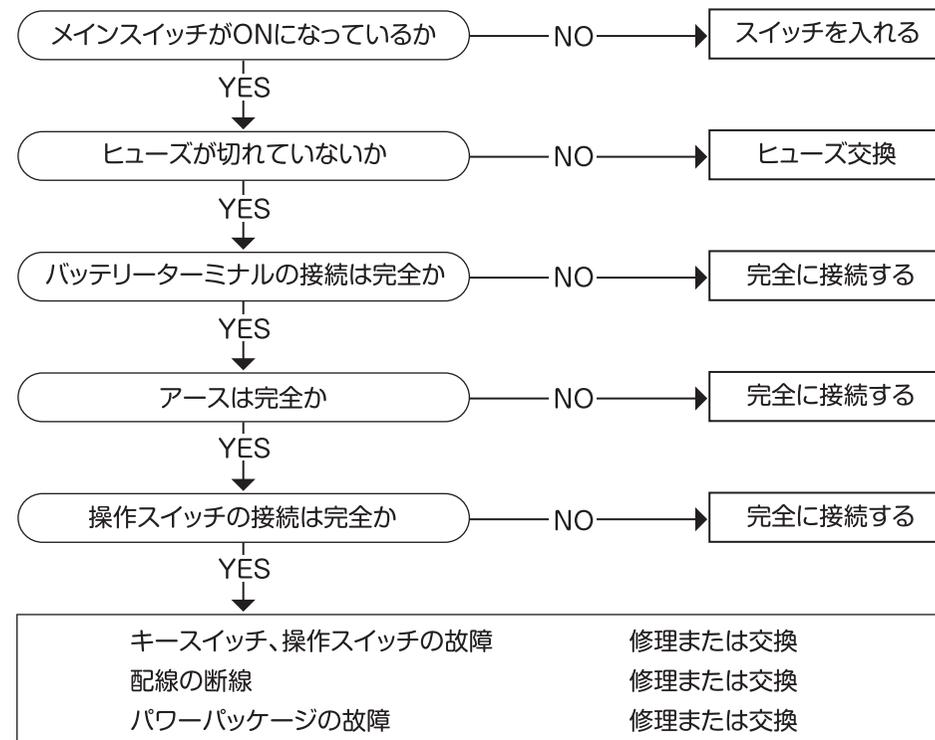
故障かな?…と思ったら

トラブルチェックに従って点検して下さい

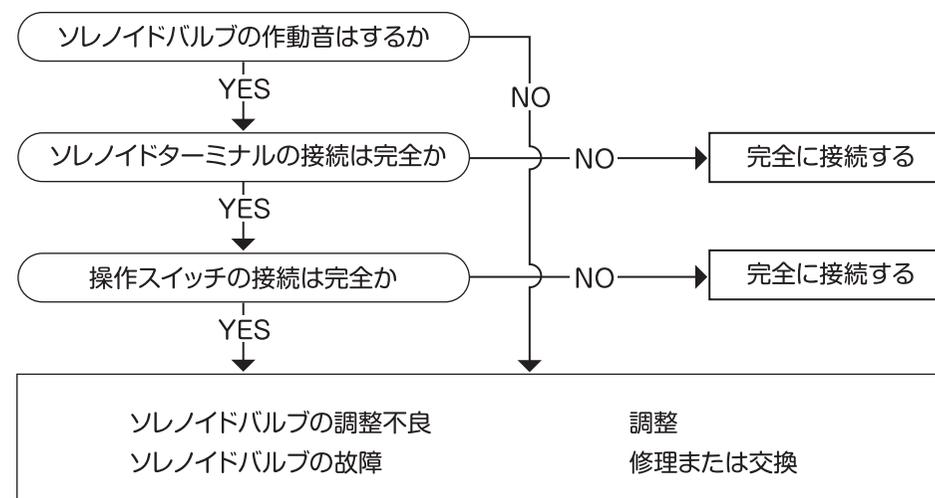
- ① 操作スイッチを押しても昇降しない
- ② 上昇したが下降しない
- ③ 下降するが上昇しない
- ④ 上昇速度が遅い 力がない 下降速度は正常
- ⑤ 下降速度が遅いまたは早い 上昇速度は正常
- ⑥ 自然落下がいちじるしい

トラブルチェック

① 操作スイッチを押しても昇降しない

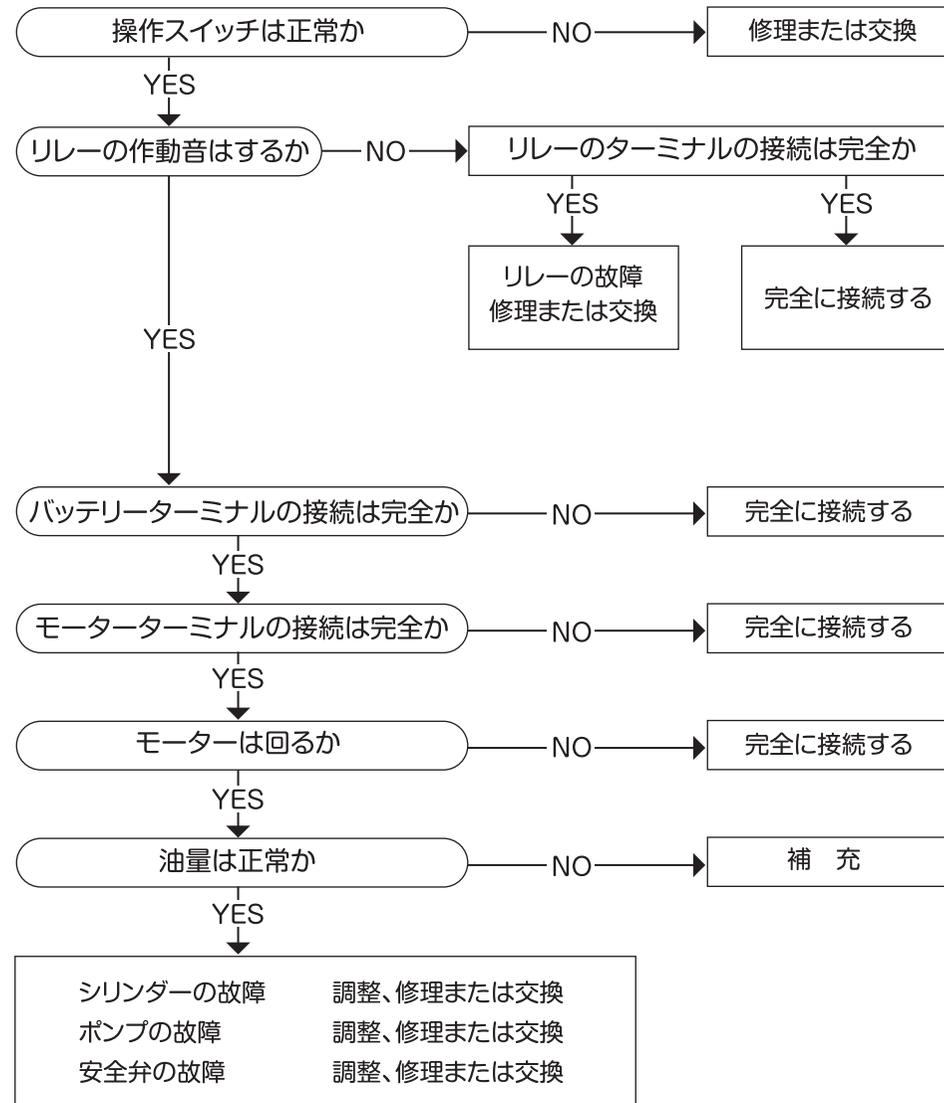


① 上昇したが下降しない



トラブルチェック

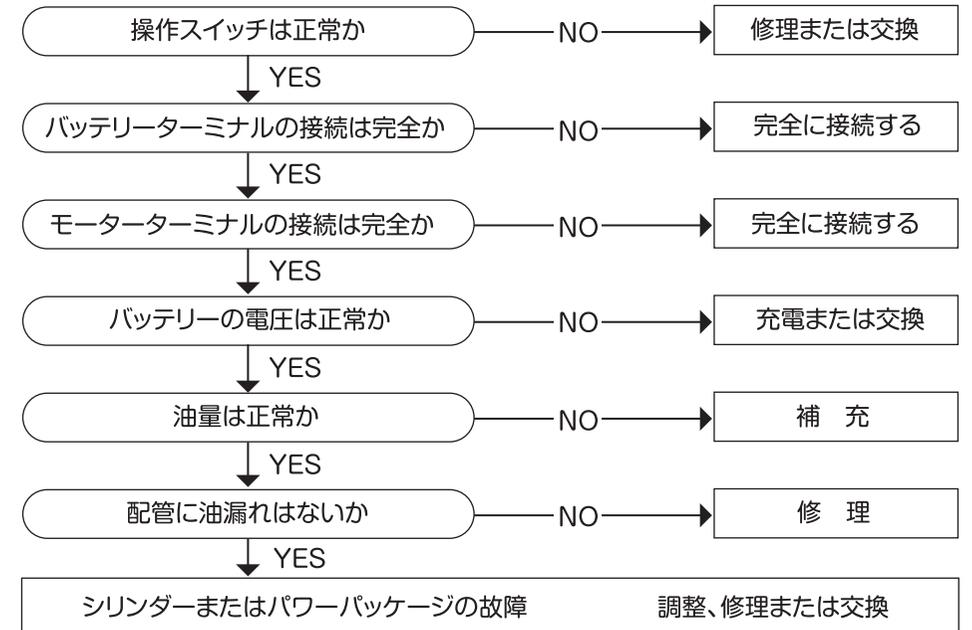
③ 下降するが上昇しない



*長年使用すると経年劣化によりモーター内の電気接触が悪くなっていることがあります。モーターが動かない時は、緊急処置としてドライバーの柄等でモーターに衝撃を与えると一時的に動くようになる可能性があります。上記の症状が出た場合は、モーター不良ですので早急に修理を行って下さい。

トラブルチェック

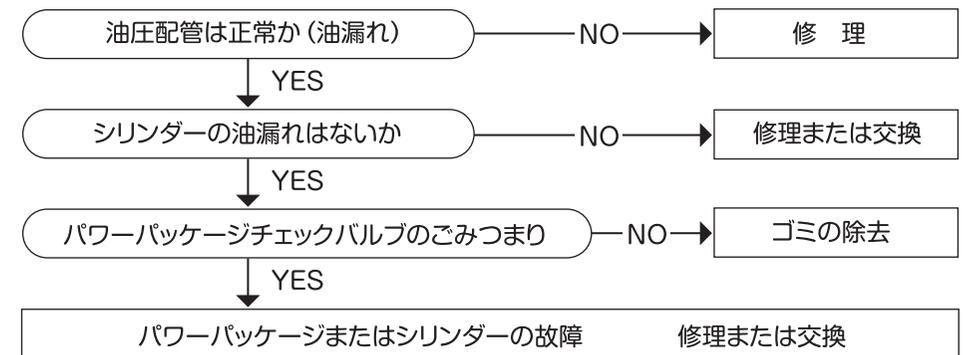
④ 上昇速度が遅い 力がない 下降速度は正常



⑤ 下降速度が遅いまたは早い 上昇速度は正常

ソレノイドバルブの調整

⑥ 自然落下がいちじるしい



4.点検・整備

●よくあるトラブル事例

事例①「室内リモコンスイッチの配線はさみ込み（断線、ショートした）」

(1) 症状

①配線が断線しただけの場合

- 室外リモコンスイッチでは正常に動くが、室内リモコンスイッチでは動かない。

②配線がショートした場合

②-1…配線がボデー金属部とショートした場合

- ヒューズが切れてリフトが動かない。

②-2…配線が配線内部でショートした場合

- メインスイッチを入れるとリモコンスイッチを操作していないのに勝手にリフトが動く。

(2) 応急対処方法

- 配線をはさみ込んだ状態を復旧させて下さい。
- ヒューズが切れている場合は、ヒューズを新しい物に交換して下さい。
- 室内リモコンが使えない場合は室外リモコンスイッチにて操作して下さい。

(3) 修理

サービス工場にて室内リモコン配線を新しい物と交換して下さい。

事例②「安全バーの変形、損傷（リミットスイッチが感知しなくなった）」

(1) 症状

- リフトを「下降」させることができるが、「上昇」させることができない。

(2) 応急対処方法

- 安全バーの左端に取付けしている、リミットスイッチが感知するように処置して下さい。

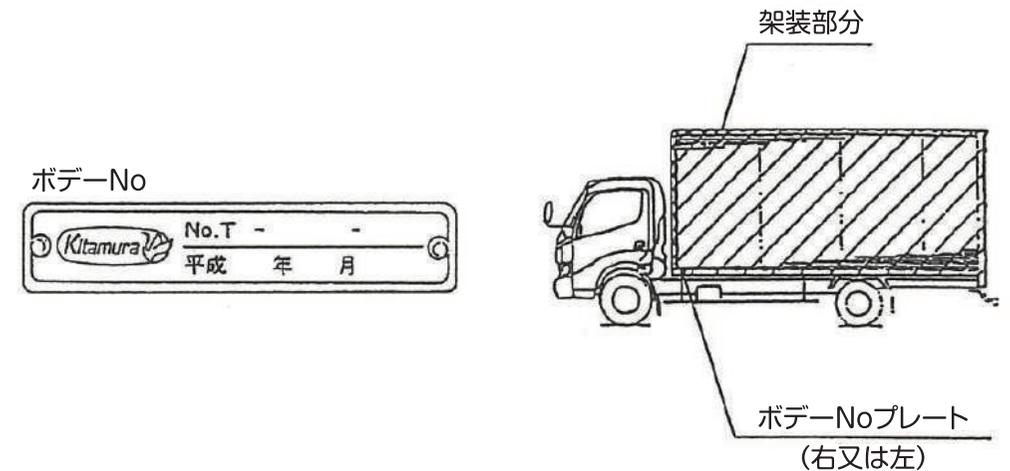
(3) 修理

- サービス工場にて安全バーを修理して下さい。

アフターサービス

●補修用部品

- 下記補修用部品を手配する際は、架装部分のボデーNoプレートに記載されているボデーNoをご連絡下さい。
- 部品については弊社・部品サービス課へお申し付け下さい。



<定期交換部品>

製品の機能、性能を確保し、安全にご使用頂くため、下記部品は定期的に交換が必要です。

定期交換部品	交換時期	交換基準	備考
ワイヤ シーブ シーブ軸	・2年毎	・摩耗や損傷が見られた場合	
油圧作動油	・初回3ヶ月目 ・2回目以降 1年毎	・汚れ、劣化の明らかな場合	耐摩耗性作動油 ISO VG22相当 (冬期温度が0℃以下に 下がることの多い地域 ではISO VG15相当)
油圧ホース	・2年毎	・ひび割れ、亀裂等、異常が見られるもの。 油漏れ、にじみ等があるもの	

上記交換時期は、標準的な使用条件を基に定めたものです。著しく過酷な使用条件、使用環境の場合は早めの交換が必要となります。

アフターサービス

<補修用部品>

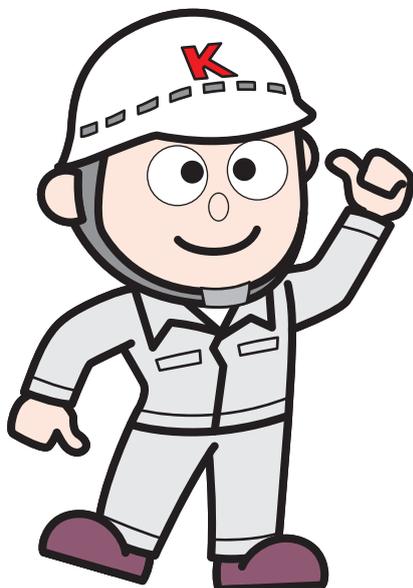
消耗品	交換基準
トーションバー	損傷したもの、バネ力が低下したもの
シリンダパッキン・シール類	傷、油漏れの見られるもの
ブッシュ・樹脂部品・ゴム部品	著しい摩耗の見られるもの、ガタが大きいもの 破損したもの
ヒューズ・ランプ類	切れたもの
ドアパッキン	切れたもの
コーションプレート	印字が消えたもの、損傷したもの
ワイヤレスリモコン(オプション)用電池	電池残量の無いもの

- 定期点検が実施されていない場合、または交換基準に達している状態で使用しているときに不具合が発生した場合は、保証期間内でも保証修理の適用外となることがあります。

●点検・修理・保証

- 定期点検や修理は当該リフトを販売致しました販売店のサービス工場、弊社指定サービス工場及び弊社各営業所へお申し付け下さい。
- 保証の内容は弊社で定めた範囲で実施致します。
- 保証の適用外
塗装・メッキ部の錆び、塩害、酸性雨による劣化、音・振動に関する内容、オイルのにじみ
- 保証されないもの
休業補償、商業補償、レンタカー代、交通費、陸送費、通信費

— メ モ —



取扱説明書は車のなかに必ず保管して下さい

本社・工場 / 〒950-0322 新潟市江南区両川1丁目3604番地12

☎025 (280) 7111 FAX 025 (280) 7110

The head office and the factory; 1-3604-12 Ryokawa, Niigata-shi. 950-0322

東京 / 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-3-13

☎03 (3518) 8889 FAX 03 (5281) 1020

Tokyo office; 2-3-13 kanda ogawacyo chiyoda-ku. Tokyo. 101-0052

大阪 ☎06 (6305) 7174 FAX 06 (6305) 1340

名古屋 ☎052 (753) 6351 FAX 052 (753) 6381

仙台 ☎022 (771) 7321 FAX 022 (771) 7320

新潟 ☎025 (280) 7111 FAX 025 (280) 7110

金沢 ☎076 (298) 3375 FAX 076 (298) 3450

●インターネットホームページ <https://www.kitamurass.co.jp>



株式
会社

北村製作所

KITAMURA MANUFACTURING CO.,LTD.

2023-2 500